平成26年度「新しい東北」先導モデル事業

報告書

保育所を活用した生活不活発病防止給食受け取りシステムの構築

東北発

岩手県　宮城県　福島県

# ほっこり食事プロジェクト

平成27年3月

公益社団法人　日本栄養士会

# 目　次

Ⅰ　はじめに …… 2

Ⅱ　報告概要 …… 4

Ⅲ　実施体制 …… 6

Ⅳ　実施スケジュール …… 9

Ⅴ　実施・活動記録 …… 10

＜岩手県＞（福）野田村保育会　野田村保育所 …… 12

＜宮城県＞（福）千代福祉会　あっぷる保育園 …… 15

学校法人 尚絅学院大学附属幼稚園 …… 17

＜福島県＞（福）いわき福音協会　小島保育園 …… 18

Ⅵ　今後の活動にむけて …… 22

Ⅶ　関係書類

・平成 26 年度「新しい東北」先導モデル事業の公募ついての概要 …… 26

・新しい東北先導モデル事例集 …… 28

・栄養手帳、配布物 …… 30

・各県からの報告 …… 31

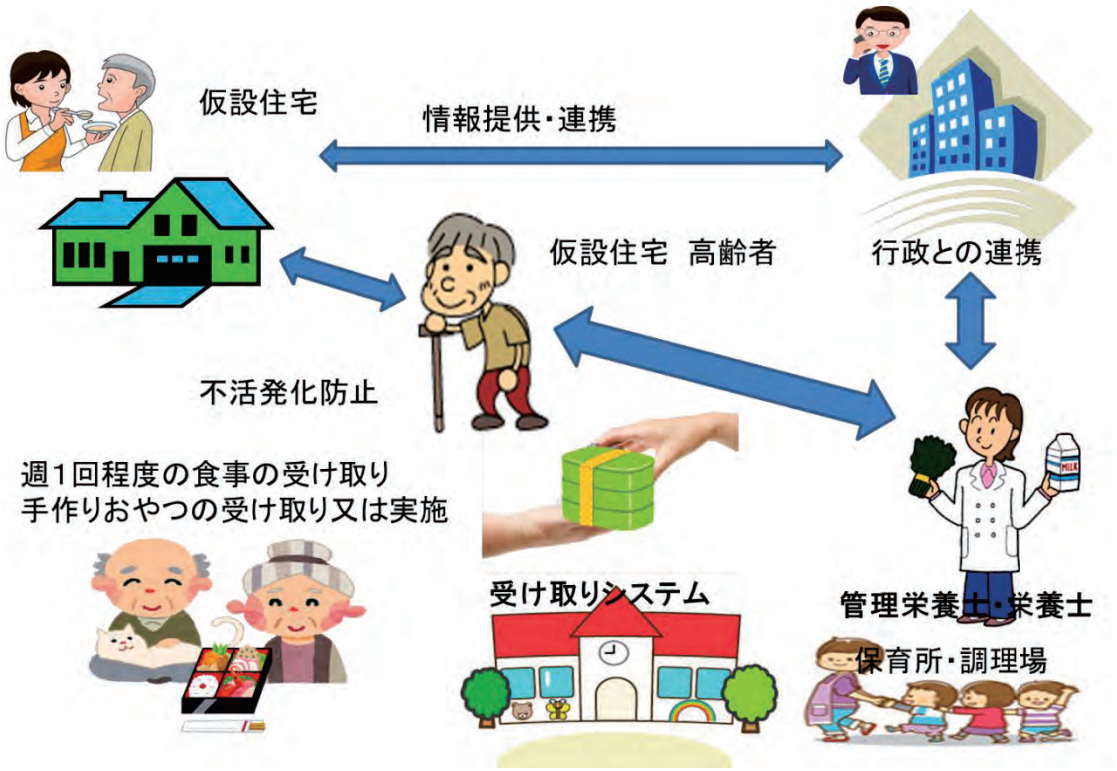
Ⅷ　ほっこり話 …… 62

# Ⅰ　はじめに

## 管理栄養士等による高齢者への栄養と食支援体制の構築

公益社団法人日本栄養士会は、栄養と食を通じて、人が健やかにより良く共に生きるを支援する栄養の専門職団体であり、東日本大震災の発災直後より、被災地で栄養・健康支援を継続している。被災地の仮設住宅では高齢者の「孤食」「低栄養」「生活不活発病（廃用症候群）」「認知症」などの問題が生じており、全国的にみても高齢者には同様の問題が見受けられる。2012年の食育白書において、女性の70歳以上で1日のすべての食事を1人で食べる頻度は「ほとんど毎日」が約2割という結果がある。「孤食」による調理意欲の低下、栄養バランスの乱れ、室内に引きこもることによる生活不活発病や人とのふれあいの欠如等、高齢者にとって要介護状態につながってしまう大きな問題が見受けられる。

どうしたら高齢者が生き生きと地域で生活し、栄養バランスの良い食事を楽しく食べ、社会参加、健康増進が図れるだろうか。そこで、従来の弁当宅配形式ではなく、地域の保育所を訪問し、園児や保育者等と一緒に食事や会話を楽しむ、地域社会とのつながりを築く「ほっこり食事プロジェクト（ほいくしょをつうじてこうれいしゃがりようする食事プロジェクト）」を企画した。仮設住宅の高齢者に声掛けし、保育所に迎え、園児と一緒に伝承遊びや、餅つき大会、芋煮会等のイベントの手伝いをしていただき、会食する。食事前には必ず手を洗うこと、手と手を合わせて感謝して食事を頂くこと、好き嫌いなくバランスの良い食事をとること、旬の食材から季節を感じること、「おいしいね」とお互いに会話を楽しみながらの共食の場は、まさに食育の実践である。その後、高齢者の参加者には管理栄養士等による栄養相談、体重計測、血圧測定、健康チェック等を実施する。



大黒舞　in　野田村保育所

## 「ほっこり、にっこり」笑顔がいっぱい

当プロジェクトの実施により保育所を利用した高齢者と園児とのふれあい、食事（弁当）を受け取りに行くことでの外出の機会の提供と、共食による孤食防止、食を通じた楽しみ、関わる者みんなの笑顔。高齢者の生活不活発病、認知症、介護予防等。高齢者の社会参加、生きがい、役割、気づき。管理栄養士等による栄養と食のサポート、見守り、相談相手。地域の医療・介護等の専門職種間の連携。栄養ケア・ステーションの活用等、保育所を中心に地域生活支援・健康づくりの拡充につながっている。

今後は、被災地域の仮設住宅のみならず、全国の保育所や栄養ケア・ステーションを拠点として、東北発信の全国に向けた事業拡大を図る。更に高齢者に限らず、妊産婦や子育てママを対象とした当該プロジェクトの拡充により、全てのライフステージにおける食育等への取組を支え、社会環境を整えていきたいと考えている。

本事業につきましては復興庁「新しい東北」先導モデル「東北発　ほっこり食事プロジェクト」としてまとめさせて頂きましたのでご高覧下されば幸いに存じます。

今後とも日本栄養士会として関係者の方々のご協力を得て、本プロジェクトの全国への拡充を図りたいと考えております。

最後になりましたが、本事業の実施にあたり、復興庁をはじめとした関係団体の皆様及び温かいご指導ご支援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

公益社団法人日本栄養士会　常務理事　下浦　佳之

# Ⅱ　報告概要

## 保育所を活用した生活不活発病防止給食受け取りシステムの構築

（岩手県・宮城県・福島県）

＜ほっこり食事プロジェクト＞

ほいくしょをつうじてこうれいしゃがりようする食事プロジェクト

**取組全体の目的・概要：**

仮設住宅における高齢者の生活不活発病（廃用症候群）や、健康管理への不安、孤独等多くの問題に対処するため、適切な食事管理と見守り、相談相手として、栄養ケア・ステーションを通じた保育所給食を利用した共食や食事の受け取りシステムを構築する。

**取組の先導性：**

自宅への宅配ではなく、食をキーワードに保育所を訪問することで、外出の機会を確保する点や、幼児や保育士等とのふれあいから社会との繋がりを築く点が先導的である。また、全国の高齢者に共通する課題への取組でもある。

**主な実施取組の内容**

**保育所の選出**

**挨拶・視察**

**運営検討会の開催**
岩手（9/24～）
宮城（9/24～）
福島（10/8～）

**企画・評価委員会**
第1回（10/23）
第2回（12/26）
第3回（ 3/9,17）

**取組①　岩手県【野田村保育所】**

○対象：泉沢地区応急仮設住宅
　　野田村野田仮設団地

○スケジュール：
第1回目：平成26年 11月11日（火）参加者 13名
第2回目：平成26年 12月16日（火）参加者16名
第3回目：平成27年　1月20日（火）参加者 6名

## 取組②宮城県
## 【あっぷる保育園】

〇対象：若林区下荒井町内

〇スケジュール：
第1回目：平成26年10月15日（水）参加者 13名
第2回目：平成26年11月 6日（木）参加者 9名

## 【尚絅学院大学附属幼稚園】

〇対象：愛島地区仮設住宅

〇スケジュール：
第1回目：平成27年 3月3日（火）参加者20名

## 取組③福島県　【小島保育園】

〇対象：楢葉町作町仮設住宅

〇スケジュール：
第1回目：平成26年11月28日（金）参加者 12名
第2回目：平成26年12月14日（日）参加者　5名
第3回目：平成27年　1月22日（木）参加者11名

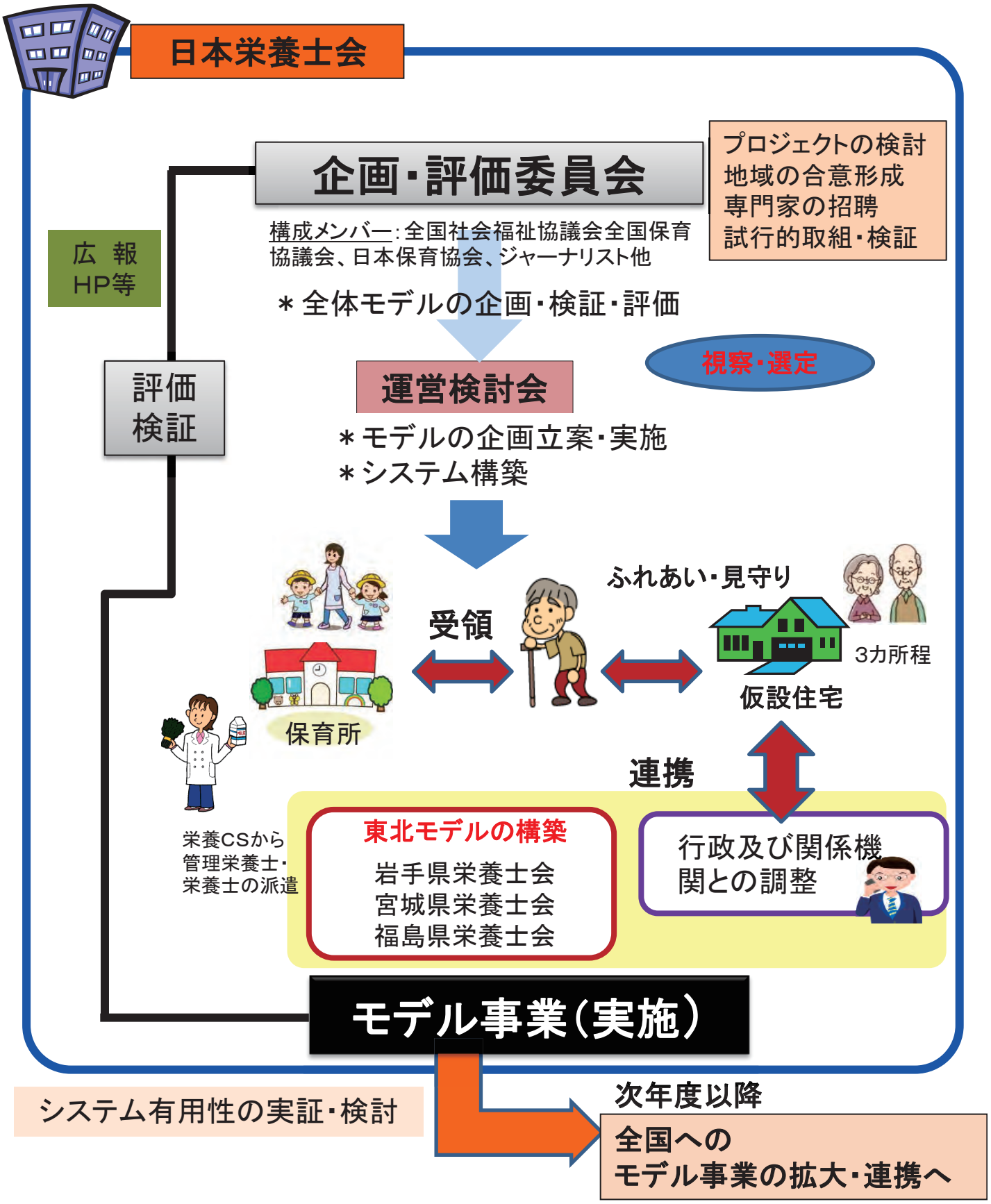
### 得られた成果

被災3県の4か所の保育園・幼稚園で、仮設住宅の高齢者が保育園等を訪問し、子どもと一緒に食事を取る事業を計9回実施し（延べ105名参加）、①保育所を利用した保育園児と高齢者とのふれあい、②仮設住宅における独居高齢者の生活不活発病、認知症、介護予防等、③保育所を拠点とした外出の機会の提供と共食による孤食防止、食を通じた楽しみ、笑顔、④高齢者の社会参加、生きがい、役割、気づき、⑤管理栄養士による栄養と食のサポート、⑥地域の医療、介護等の専門職種間の連携、⑦栄養ケア・ステーションの活用、等の地域環境、実施施設による取組パターンの事例を得ることができた。

### 今後に向けた課題・活動の見通し

本取組の成果を元に、①開催時季・実施回数、②高齢者の役割、③保育園の行事日以外での開催　等について検討し、さらに取組を深めたい。また、東北に限らず全国における事業展開に向け、他地域への普及活動も実施し、取組を拡げたい。

# Ⅲ　実施体制


日本栄養士会
企画・評価委員会
プロジェクトの検討
地域の合意形成
専門家の招聘
試行的取組・検証
構成メンバー：全国社会福祉協議会全国保育協議会、日本保育協会、ジャーナリスト他
＊全体モデルの企画・検証・評価
広　報
HP等
評価
検証
視察・選定
運営検討会
＊モデルの企画立案・実施
＊システム構築
ふれあい・見守り
受領
3カ所程
仮設住宅
保育所
連携
栄養CSから
管理栄養士・
栄養士の派遣
東北モデルの構築
岩手県栄養士会
宮城県栄養士会
福島県栄養士会
行政及び関係機関との調整
モデル事業（実施）
システム有用性の実証・検討
次年度以降
全国への
モデル事業の拡大・連携へ

## 【企画・評価委員会　委員名簿】

| | | |
|---|---|---|
| | 阿部　絹子 | （公社）日本栄養士会　公衆衛生事業部担当理事 |
| | 大熊　由紀子 | ジャーナリスト |
| | 佐藤　秀樹 | （社福）全国社会福祉協議会 全国保育協議会　副会長<br>（こどものくに保育園 園長、青森県保育連合会長） |
| ○ | 下浦　佳之 | （公社）日本栄養士会 常務理事 |
| | 芳賀　カンナ | （社福）日本保育協会<br>（堤乳児保育園 園長、日本保育協会岩手県支部青年部長） |
| | 政安　静子 | （公社）日本栄養士会　福祉事業部担当理事 |

○：委員長・敬称略・50音順
平成26年9月24日現在

## 【岩手県】

| | |
|---|---|
| 岩山　啓子 | 久慈保健所主査栄養士 |
| 小野寺　すみ | (福)野田村保育会　野田村保育所　所長 |
| 久慈　孝子 | (公社)岩手県栄養士会 |
| 澤口 照美 | (福)野田村保育会　野田村保育所　調理師 |
| 下畑 優子 | 野田村住民福祉課栄養士 |
| 中村 幸枝 | (福)野田村保育会　野田村保育所　主任保育士 |
| 庭瀬　サチ子 | (公社)岩手県栄養士会 |
| 貳又 ゑな子 | 野田村食生活改善推進員会長 |
| 福田　禮子 | (公社)岩手県栄養士会　会長 |

## 【宮城県】

| | |
|---|---|
| 岩倉 政城 | 尚絅学院大学附属幼稚園　園長 |
| 片倉　成子 | (公社)宮城県栄養士会 副会長 |
| 坂本 由佳里 | 尚絅学院大学附属幼稚園　教頭 |
| 千石 祐子 | (公社)宮城県栄養士会 副会長 |
| 千葉　礼子 | (公社)宮城県栄養士会 |
| 半澤　和枝 | (福)千代福祉会 あっぷる保育園 園長 |
| 南 文子 | (公社)宮城県栄養士会　会長 |

## 【福島県】

| | |
|---|---|
| 伊藤 美智子 | (福)いわき福音協会 小島保育園 主任保育士 |
| 岩見 裕子 | (公社)福島県栄養士会(いわき福音協会福島整肢療護園) |
| 加藤 すみ子 | (公社)福島県栄養士会(いわき福音協会指定障害者支援施設はまなす荘) |
| 為永　公子 | (公社)福島県栄養士会(いわき福音協会福島整肢療護園) |
| 中村　啓子 | (公社)福島県栄養士会 会長 |
| 山際 量 | (福)いわき福音協会 小島保育園 園長 |

敬称略・50音順

# Ⅳ　実施スケジュール

| 月 | 運営 | 保育所 |
|---|---|---|
| 7月 | | |
| 8月 | 関係機関への<br>事業説明・協力要請<br><br>福祉事業部からの<br>各地区担当者の推薦<br><br>保育所の選出 | |
| 9月 | | |
| 10月 | 10/23★企画・運営委員会 | 実施<br>10/15【あっぷる保育園】 |
| 11月 | | 11/ 6【あっぷる保育園】<br><br>11/11【野田村保育所】<br>11/28【小島保育園】 |
| 12月 | 12/26★企画・運営委員会 | 12/14【小島保育園】<br>12/16【野田村保育所】 |
| 1月 | | 1/20【野田村保育所】<br>1/22【小島保育園】 |
| 2月 | | |
| 3月 | 3/9・17★企画・運営委員会 | 3/3【尚絅学院大学附属幼稚園】 |

保育所（園）への挨拶・視察

事業調整・連携

事業企画

# V　実施・活動記録

## 事業実施までの流れ（概略）

**説明**
- 事業の目的・概要の理解
- 企画内容の説明

**場所**
- 実施場所の選定（地域の保育所・仮設住宅等）
- 移動方法（徒歩・公共交通機関・車等での送迎必要等）

**時期**
- 実施時期の予定（毎日・週・月・年間等）
- 実施の時間帯（朝食・昼食・おやつ・夕食等）

**企画**
- 案内・お迎え・挨拶・実施（食事の喫食を含む）・栄養相談・健康チェック・お見送り
- 内容　園児とのふれあい・共食

**役割**
- ボランティア（草むしり・水やり・食育・伝承遊び・見守り等）
- 生きがい・役割

**評価**
- 企画内容
- 経費（材料費・人件費・消耗品費・交通費等）

**課題**
- 課題の抽出
- 課題への対応

| | 岩　手 | 宮　城 | | 福　島 |
|---|---|---|---|---|
| 保育所 | 野田村保育所 | あっぷる保育園 | 尚絅学院大学附属<br>幼稚園 | いわき福音協会<br>小島保育園 |
| ファースト<br>コンタクト | 岩手県庁 | 日本栄養士会<br>福祉事業部 | 宮城県栄養士会 | 日本栄養士会<br>福祉事業部 |
| 保育所の<br>選出法 | 県庁担当者からの対象地域保健所への呼びかけ、提案 | 福祉事業部担当者から関係園への呼びかけ、提案 | 県栄担当者の関係園への呼びかけ、提案 | 福祉事業部担当者の関係法人への呼びかけ、提案 |
| 対　象 | 泉沢地区応急仮設住宅<br>野田村野田仮設団地 | 下荒井町内老人会 | 愛島仮設 | 楢葉町住民<br>作町1丁目応急仮設住宅 |
| 協力機関等 | 久慈保健所、野田村 | 下荒井町自治会 | 学校法人　尚絅学院<br>（ボランティアセンター含む） | 社会福祉法人いわき福音協会、楢葉町 |
| コーディネータ | 久慈保健所 | 宮城県栄養士会 | 宮城県栄養士会 | いわき福音協会 |
| 企画 | 野田村保育所 | あっぷる保育園 | 尚絅学院大学附属幼稚園 | いわき福音協会・小島保育園 |
| 企画サポート | 岩手県庁<br>岩手県栄養士会<br>野田村<br>食生活改善推進員 | 宮城県栄養士会 | 宮城県栄養士会 | 福島県栄養士会<br>いわき福音協会 |
| 対象への<br>呼びかけ | 園児作成の招待状<br>仮設住宅への直接的声掛け<br>野田村からの声掛け<br>参加者同士の声掛け | 自治会長からの声掛け | ボランティアセンター、コーディネータからの声掛け | コーディネータによる声掛け<br>園児作成の招待状 |
| 具体的内容 | 昼食の共食<br>手遊び<br>ダンス披露<br>歌披露<br>食育講座<br>栄養相談<br>血圧測定<br>体重測定 | 昼食の共食<br>芋煮会<br>焼き芋大会<br>ダンス披露<br>歌披露<br>食生活の聞き取り | ピザ作り<br>昼食の共食<br>歌披露<br>手遊び<br>食生活の聞き取り | 餅つき大会<br>昼食の共食<br>弁当提供<br>クリスマス祝会鑑賞<br>伝承遊び<br>紙相撲大会<br>食育講座<br>栄養相談 |
| 参加人数 | 延べ35人 | 延べ22人 | 延べ20人 | 延べ28人 |

## ＜岩手県＞(福)野田村保育会　野田村保育所

対象：泉沢地区応急仮設住宅、野田村野田仮設団地

**第1回**

**11月11日（火）**

| 人数 | 内　容 |
|---|---|
| 男性：　0名<br>女性　：13名 | ・園児によるダンス披露<br>・歌＆手遊び<br>・「鮭の日」の園児によるミニ食育講座<br>・ホールで鮭の日ｽﾍﾟｼｬﾙﾒﾆｭｰの共食<br>・園児からのプレゼントと次回案内<br>・栄養相談＆保健師による血圧測定 |

高齢者と保育園児との団らんのひととき

あんたがたどこさ「手遊び」上手くあってるかな？

11/11日　鮭の日メニュー

管理栄養士による
食育講座

みんなでお食事時間　おててを合わせて頂きます！

## ＜岩手県＞(福)野田村保育会　野田村保育所

対象：泉沢地区応急仮設住宅、野田村野田仮設団地

**第2回**

**12月16日（火）**

| 人数 | 内　容 |
|---|---|
| 男性：　0名<br>女性　：16名 | ・園児によるダンス披露<br>・歌＆手遊び（第1回目の拡大版）<br>・ホールで減塩メニューの共食<br>・園児からのプレゼントと次回案内<br>・栄養相談＆保健師による血圧測定 |

12/16日　減塩メニュー

栄養相談・体重測定・血圧測定

栄養手帳、けんこう手帳の活用

## ＜岩手県＞(福)野田村保育会　野田村保育所

対象：泉沢地区応急仮設住宅、野田村野田仮設団地

**第3回**

**1月20日（火）**

| 人数 | 内　容 |
|---|---|
| 男性：　0名<br>女性　：　6名 | ・歌＆手遊び、園児によるダンス披露<br>・参加者からの御礼の舞（大黒舞）<br>・ミニ食育講座<br>・園児からのプレゼントと次回案内<br>・栄養相談＆保健師による血圧測定 |

雪の下のほうれん草
凍みて甘くなっています。

地産地消、旬の食材等、管理栄養士によって
作成されたレシピに基づいたメニュー

厨房内では、栄養士・調理師も大忙し

## ＜宮城県＞(福)千代福祉会　あっぷる保育園

対象：下荒井町内

**第1回**

**10月15日（水）**

| 人数 | 内　容 |
|---|---|
| 男性：　2名<br>女性　：11名 | ・園児による荒馬の踊り＆歌の披露<br>・園庭で芋煮を共食 |

園庭で芋煮会

こころもおなかも
ほっこり

本日はようこそいらっしゃいました。

## ＜宮城県＞(福)千代福祉会　あっぷる保育園

対象：下荒井町内

**第2回**

**11月6日（木）**

| 人数 | 内　容 |
|---|---|
| 男性：　0名<br>女性　：　9名 | ・園児による踊りの披露<br>・園庭で焼き芋の共食<br>・ホールで昼食を共食<br>・栄養士による声かけ |

園長先生、大活躍。けむりの中、焼き芋の焼き担当

ちゃっかりと、おばあちゃんのお膝でほっこりと

焼き芋大会　ほっこり、ほくほくおいしいね

## ＜宮城県＞学校法人 尚絅学院大学附属幼稚園

対象：愛島仮設

**第3回**

**3月3日（火）**

| 人数 | 内　容 |
|---|---|
| 男性：　2名<br>女性　：18名 | ・園庭のピザ窯を使ってのピザ作り<br>・園児による歌の披露<br>・手遊び |

＜ピザ作り＞

♪お寺の和尚さんが～♪

おじいちゃん、
お弁当箱の蓋がしまらない・・・

## ＜福島県＞(福)いわき福音協会　小島保育園

対象:楢葉町住民
作町1丁目応急仮設住宅

**第1回**

**11月28日（金）**

| 人数 | 内　容 |
|---|---|
| 男性：　2名<br>女性　：10名 | ・園庭で餅つき<br>・教室でお餅&お雑煮を共食<br>・食育話<br>・年中児と絵本の読み聞かせ・ブロック遊び等<br>・園児からのプレゼントと次回案内 |

よいしょ！よいしょう！　大きな掛け声で餅つき大会

今日は楽しかったよ、ありがとうの握手

## ＜福島県＞(福)いわき福音協会　小島保育園

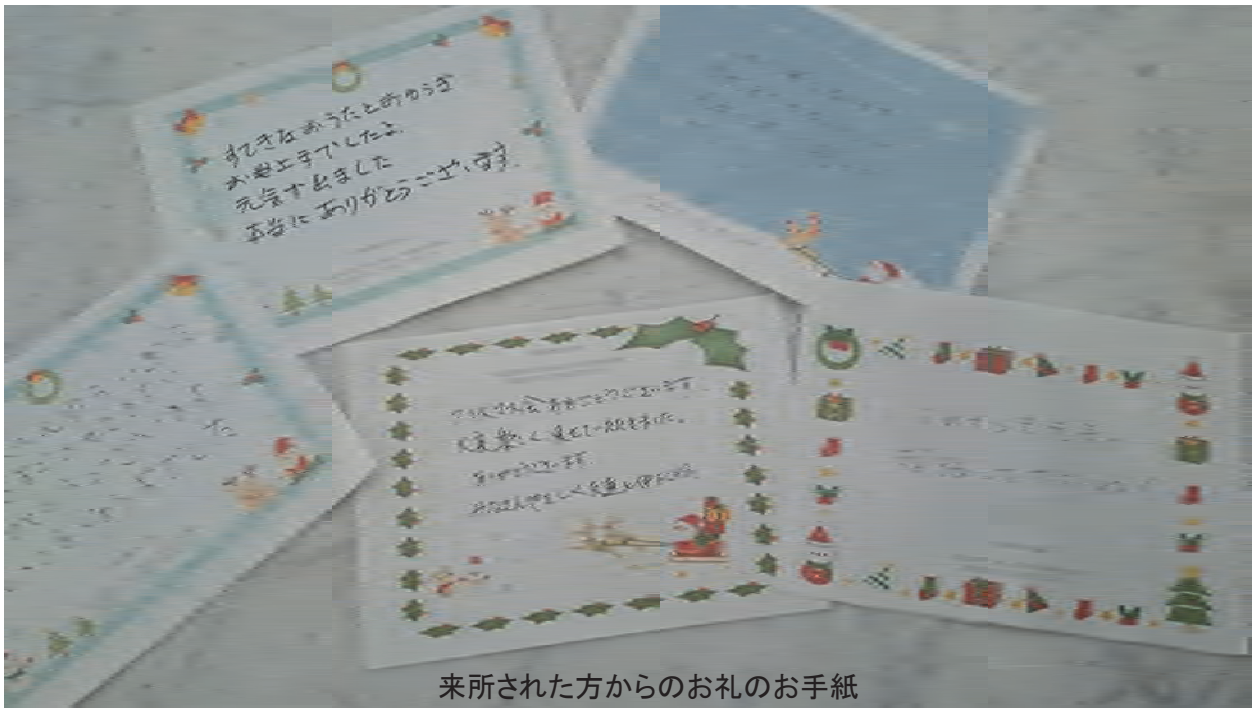
対象：楢葉町住民
作町1丁目応急仮設住宅

**第2回**
**12月14日（日）**

| 人数 | 内　容 |
|---|---|
| 男性：　2名<br>女性　：　3名 | ・クリスマス祝会（発表会）鑑賞<br>・園児へのメッセージ記載<br>・お弁当の配布＆次回案内 |

保護者の方々とも一緒にクリスマスをお祝いしました。

本日はお弁当のお持ち帰り。
福祉サービス事業所の手作りお弁当。


来所された方からのお礼のお手紙

## ＜福島県＞(福)いわき福音協会　小島保育園

対象:楢葉町住民
作町1丁目応急仮設住宅

**第3回**
**1月22日（木）**

| 人数 | 内　容 |
|---|---|
| 男性：　2名<br>女性　：　9名 | ・妖怪ウォッチ体操<br>・紙相撲大会（トーナメント）<br>・伝承遊び<br>・栄養相談 |

紙相撲大会！

＜伝承あそび＞一緒にすごろく！

# Ⅵ　今後の活動にむけて

## ＜課題＞　※第3回企画評価委員会等からの意見より

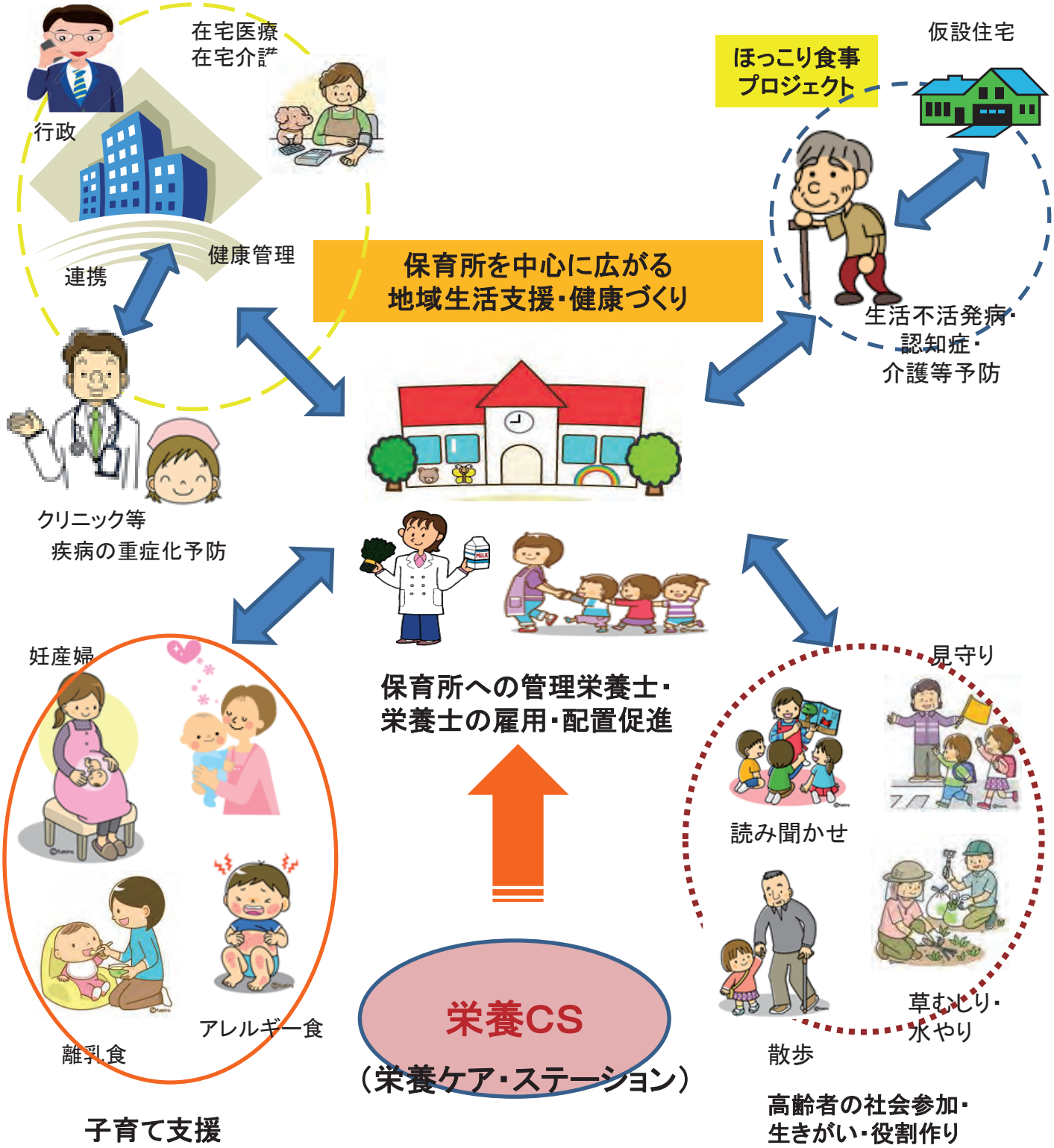
・仮設住民も引っ越しをし始めている、仮設地域が過疎地域となっている現状もある。
・集団移転をされている場所・方々に注目してはどうか。
・保育所なども一緒に移転しているとも限らない。
・時期的な部分、早めに開催ができれば、回数も重ねられたのではないか。
・予算提示
・仮設行事との調整
・今後、受益者負担とした場合の参加状況。
・高齢者側からも、子ども達に昔話を伝えたる等の交流があればもっと良い方向に進むのではないか。
・男性をどのように参加させるか。
・参加型、高齢者の役割、という要素をいれる。野田村は仮設の住民も少なくなってきている。高台もでき、新築され、集団移転した人々もみていかなければならないかとも思う。
・子供達から仮設へ出向いて、今度は子供達から会いに行ってもらうか・
・どんな方が来るかふたを開けなければならない、という状況は、食数管理の点で課題
・栄養士会の関わりがもっと全面に出ると良いかたちになるのではないか、との意見があった。
・地方で開催する際には、足の問題が一番。
・独居の方、問題のある方はこうした場所にも出て来れないため、こちらから出て手伝いをすることができれば良い。
・仮設には支援に行っているが、自治会長も代わってきている、まとめ方も異なってきている。まとめ方が困難となっているという時期

**対象場所：仮設住宅を主とし、災害公営住宅、集団移転先も含める**
**対 象 者：仮設住宅居住者の中でも特に男性高齢者の参加率の向上を図る**
**参加人数の事前把握の方法の検討**
**スタッフ：ボランティア、栄養ケア・ステーションからの派遣等**
**関係機関との協力体制の構築**
**開催時期：東北の地域性を考えると冬季での実施の困難性、早期実施**
**イベント的実施から平時からの実施への移行**
**対象場所の行事等の把握（重複をさける）**
**移動方法：対象場所から保育所までの移動方法（徒歩、車等による送迎）の検討**
**開催内容：参加型、役割づくり**
**保育園から対象先への逆交流の検討**
**費　　用：食事代金等の費用は原則受益者自己負担であるが適正な負担額の検討**
**事務経費、交通費、事務用品費、ボランティア保険等傷害保険の適切な執行**

## ＜成果・感想＞　※本事業に携わった皆様の感想

・仮設集会所で見せている顔と異なっていた。3回目にはお化粧をして出席した方もいた。
・これまで災害支援は行ってきたが、違う顔をみることができた。
・被災地の集会所にくることもできない方への栄養指導もできる機会であった。
・地域が連携して素晴らしい取り組みができた。
・法人全体で取り組むことができた。
・園児から仮設へ招待状を持っていくことで、子供の声を聞いて、部屋から出て来ていただく場面もあった。
・2回以降の開催日決定には、他の仮設の担当者との話しあいにより調整ができた
・減塩メニューを保育園からも地域へ発信できた
・震災前は、子どもや孫と同居だった方が、原発の影響で今は仮設暮らし。子ども達の久しぶりの声を聞くことで、笑顔がうまれていた。
・餅つきでは、高齢者の手際の良さ、要領をスタッフ側も学べた。
・子ども達の顔を覚えていて、場面場面で見せる違った表情まで注目していた様子
・紙相撲では、どう作ると強くなるかを子どもに教えていた。
・このお話を伺った際に、震災後、数年が経過し仮設に人がいなくなってきている時期に、今回の事業は実施することは難しいと感じた。しかし、事業の内容を聞いて協力出来そうだと思った。
・地域により問題点が異なり、地域によっての課題、進め方の違いがある。各園、臨機応変に対応していただいた、職員や関わる人の対応がすばらしい。
・被災地に限らず、子どもという財産をうまく活用し、大人がどう関わっていくかである。食べることは年齢に関係なく共通である、栄養士会が関わることの意味は大きい。
・地域全体が関わること、広がることを期待。
・仮設にいる、いないに限らず、日本全体、高齢者の問題は大きい。住んでいる人たちが地域の高齢者をどう支えるのか。
・共食という場面ももつことはとても難しい。栄養、低栄養の問題もあるが、地域とのつながりがあって、食べることが楽しい、という感情がうまれる。
・お金があるなしに関わらず、それぞれ地域で暮らしている人を支える、ということ。
・栄養士が、地域の中で関わることとは？と悩んできた。体重計測から入り、徐々に健康手帳への体重の記録欄が作られ、他職種や住民と馴染みが生まれ、つながってきた。
・原発の避難者との交流はこれまでなかった。住民感情もあり、どう声をかけたら良いか、という心配もあった。

## 新しい東北プロジェクト
## 先導モデル事業の拡大に向けて



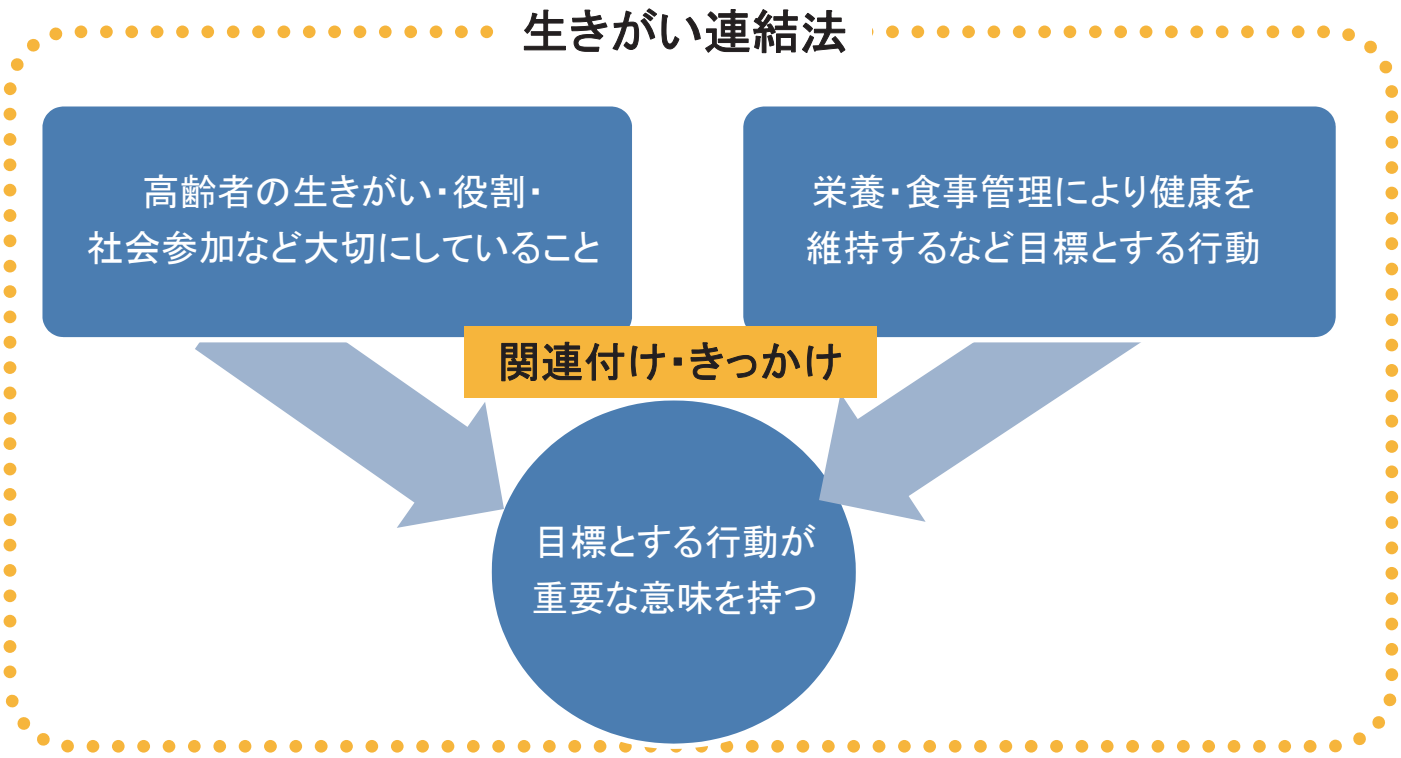
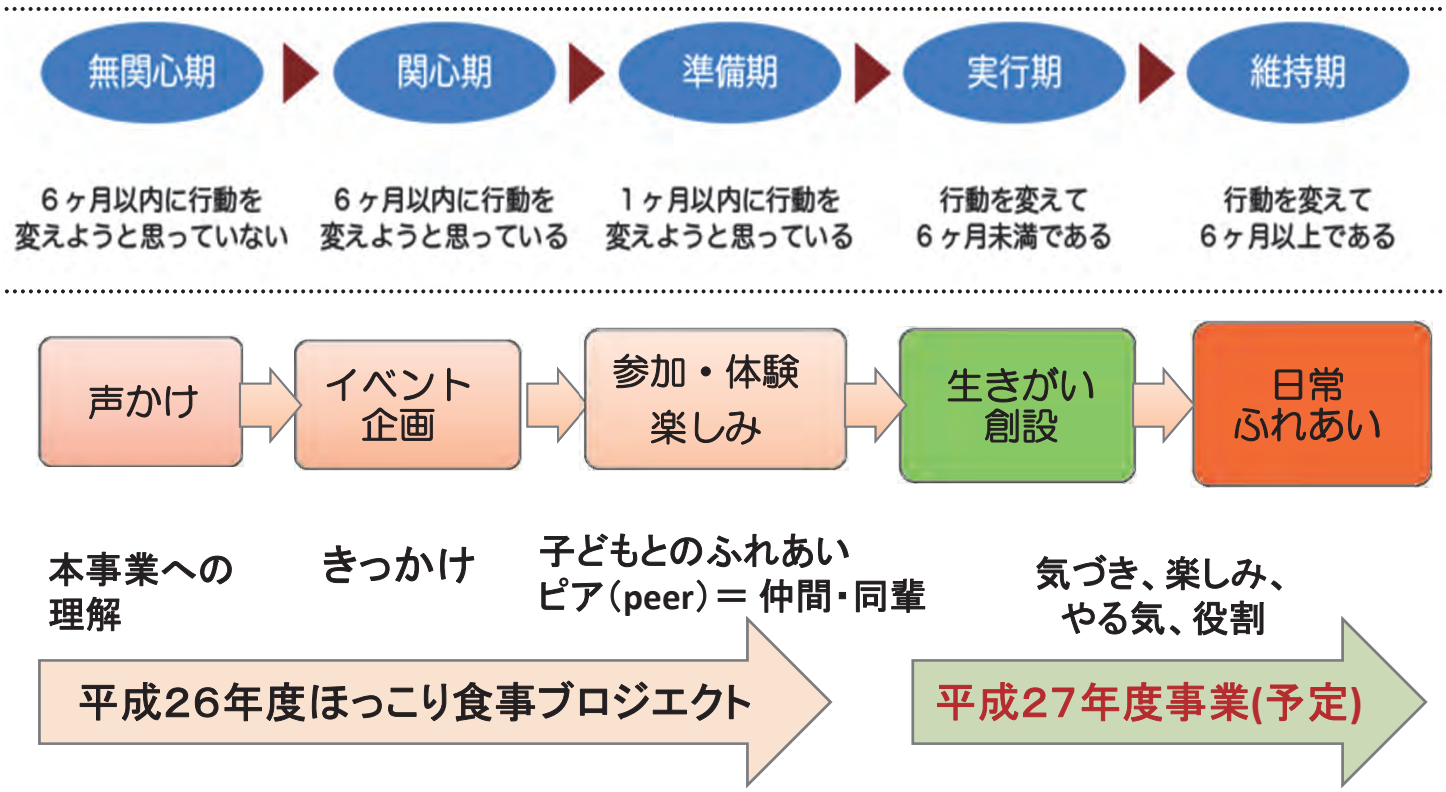



図. 行動変容ステージモデル



# Ⅶ　関係書類

## 平成２６年度「新しい東北」先導モデル事業の公募について

復興庁

### 事業の目的・概要

**【目的】**

「新しい東北」の実現に向け、被災地で既に芽生えている先導的な取組を育て、被災地での横展開を進め、東北、ひいては日本のモデルとしていくため、先導的な取組を幅広く公募し、支援することを目的としています。

**【概要】**

（１）応募資格

復興に取り組む法人・団体であれば、以下の２点の他、特段の制限はありません。

・　企業単独、地方公共団体単独での応募はできません。

・　下記②プロジェクト事業は、被災地の法人・団体が構成団体に含まれる必要があります。

（２）募集する提案

平成26年度「新しい東北」先導モデル事業では、以下の２区分において提案を募集します。

①　横断的課題支援事業（詳細はＰ．２を御参照ください）

②　プロジェクト事業（詳細はＰ．３、Ｐ．４を御参照ください）

※　この他、平成25年度「新しい東北」先導モデル事業に選定された法人・団体を対象に、「継続事業」の提案も募集。

（３）支援対象となる取組・経費の範囲

取組の立ち上げ段階において必要となるソフト面の取組を包括的に支援します。

（施設整備等のハード事業は対象になりません。）

支援対象例　：　関係者の合意形成に向けたシンポジウム・ワークショップ等の開催に関する経費
取組の検討や効果検証に必要な人件費や専門家招聘の経費　等

（４）選定に向けた手続

選定基準に則り、復興推進委員等の有識者からの意見を踏まえた上で、支援対象事業を選定します。

*※本事業の公募は、平成２６年度予算の成立が前提となります。*

1

## ①横断的課題支援事業の公募について

復興庁

**1．募集する提案**

被災地では、リーダーとなる人材の育成・確保や起業・新事業の創出に向けた支援等、各種取組・事業に横断した課題が存在します。こうした横断的な課題の解決に向けた支援を行う取組を募集します。

（選定件数は数件程度を想定）

**2．選定基準**

①　先導性・モデル性　…　先進的な発想や手法の活用、他の参考となり得る取組内容
②　持続性　…　将来にわたり持続的に実施可能な取組内容
③　相乗効果・波及効果　…　取組の発展に向けた、多様な連携先の確保や効果的な情報発信
④　主体性　…　地域の関係者を巻き込んだ実施体制の構築
⑤　計画性・実現可能性　…　明確かつ具体的な取組内容、無理のない取組スケジュール
⑥　効率性　…　取組の目的・規模に照らして、適切と考えられる必要経費

**3．スケジュール**

○公募期間
平成２６年２月１８日（火）
～平成２６年３月２０日（木）

○公募〆切
平成２６年３月２０日（木）１２：００

2/18～3/20　公募期間
→ 3月下旬～4月下旬　審査期間
→ 4月下旬　取組選定
→ 4月下旬～年度末　取組実施

**参考：平成２５年度モデル事業における選定案件例**

**人材育成**
**地域の課題解決に取り組む人材の育成**
被災地で課題となっているテーマを使った実践的なワークショップ等を通じて、地域の課題解決に長期的に取り組んでいく人材を育成。

**ＩＴ活用支援**
**被災地におけるICTの利活用支援**
被災事業者のICTの利活用（Webサイトの構築等）を促進するため、全国の専門人材・企業の支援を被災地に結び付けるマッチングを実施。

**起業支援**
**地域を支える起業家の育成・支援**
地域を支える起業・創業の支援に向け、地域資源を活用したマッチングやベンチャーファンドといった仕組みを構築。

2

## ②プロジェクト事業の公募について（1）

復興庁

### 1．募集する提案

以下の５分野に関して、復興推進委員会における議論の状況に即したプロジェクトを募集します。

- 元気で健やかな子どもの成長を見守る安心な社会（子どもの居場所づくりや教育環境の整備など）
- 「高齢者標準」による活力ある超高齢社会（自立のための生活支援、健康支援、地域医療など）
- 持続可能なエネルギー社会（自律・分散型エネルギー社会）（再生可能エネルギーやスマートコミュニティの導入など）
- 頑健で高い回復力を持った社会基盤（システム）の導入で先進する社会（住民が主体となった防災活動やコミュニティの再生など）
- 高い発信力を持った地域資源を活用する社会（価値共創ビジネスの推進、豊かな観光資源の活用など）

### 2．選定基準

① 先導性・モデル性 … 先進的な発想や手法の活用、他地域にとって参考となり得る取組内容
② 持続性 … 将来にわたり、地域で持続的に実施可能な取組内容
③ 相乗効果・波及効果 … 取組の発展に向けた、多様な連携先の確保や効果的な情報発信
④ 主体性 … 地域の関係者が主体となった実施体制の構築や人材育成の実施
⑤ 計画性・実現可能性 … 明確かつ具体的な事業内容、無理のない取組スケジュール
⑥ 効率性 … 取組の目的・規模に照らして、適切と考えられる必要経費

### 3．スケジュール

**○公募期間**
平成２６年４月　１日（火）
～平成２６年４月１８日（金）

**○公募〆切**
平成２６年４月１８日（金）１２：００

※　公募要項は３月中旬頃に確定する予定です。

4/1～4/18 公募期間 → 4月～6月中 審査期間 → 6月下旬 取組選定 → 6月下旬～年度末 取組実施

3

## ②プロジェクト事業の公募について（2）

復興庁

### 参考：平成２５年度モデル事業における選定案件例

**子どもの成長**
**子どもの成長を育む地域の遊び場づくり**
地域のプレーリーダーによる遊び場づくりのモデル化と、公園等の身近な遊び場のあり方を検証。

**高齢社会**
**「次世代型地域包括ケア」の推進**
24時間対応の在宅医療・看護・介護等を目指し、自治体・NPO等が協働し、多職種連携システムを構築。

**高齢社会**
**コミュニティ・サポートセンターのモデル化**
地元の高齢者自身の社会参加による共助的なコミュニティ支援（高齢者の健康づくり、子育て支援等）を推進する拠点のモデルを構築。

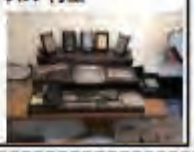
**エネルギー**
**温泉熱を活かした六次化産業創出**
植物工場や養殖施設において、温泉熱のエネルギーを活用した、新たなビジネスモデルを構築。

**社会基盤**
**地域課題に応じた防災訓練モデル化**
地域の危機管理能力向上を目指し、地域課題に応じた住民参加による避難訓練手法等のモデルを構築。

**地域資源（一次産業）**
**中山間地域における植物工場の活用**
中山間地域の農業の所得向上を目指し、露地栽培では大規模化ができないところ、従来の品種に加え、植物工場を活用し、品種の拡大を検証。

**地域資源（観光）**
**「旅館」のブランド価値向上**
グローバル市場における旅館の価値向上を目指し、海外からの予約が可能な旅館専用の予約サイトや、海外の旅行会社等との商流を活性化させる在庫管理システムを導入。

**地域資源（ものづくり・ＩＴ）**
**伝統技能継承と先端技術の融合によるなりわい再生**
地域のものづくりの発展を目指し、伝統技能と先端技術を融合させ、新製品を開発。その際、障害者や高齢者の社会参画を促進。



**地域資源（観光）**
**「三陸ジオパーク」の観光資源化**
三陸沿岸という広域の地質・地形に新たな付加価値を見出し、水産業や自然景観等の既存の資源と併せ、新たな観光資源化。

4

Theme | テーマ

安心・安全な地域づくり

Area | 地域

被災3県

Player | 取り組み主体

公益社団法人日本栄養士会

Project | 事業名

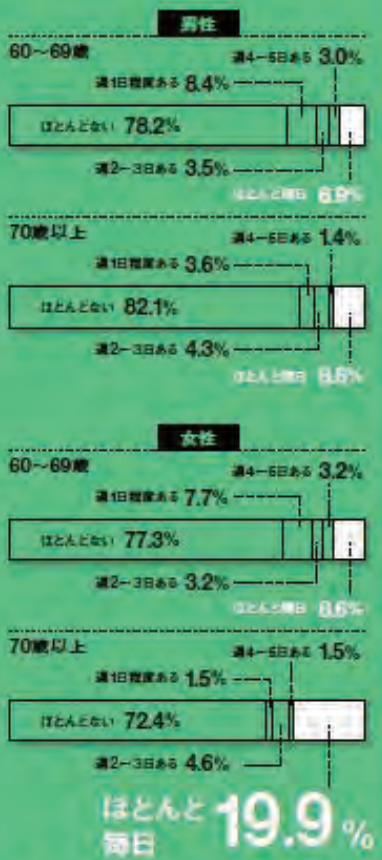
管理栄養士等による高齢者への栄養と食支援体制の構築事業

Background | 背景

## 仮設住宅で高齢者の独居や孤食が増えていた

被災地の仮設住宅では高齢者が一人で暮らす「独居」や、一人で食事をとる「孤食」が増えている。室内にひきこもり動かずにいると体力筋力が落ち「生活不活発病（廃用症候群）」をひきおこすほか、糖尿病や高血圧を併発し、長期的には認知症や要介護状態にもつながってしまう。また仮設住宅生活が長引くと調理等への意欲が減退し、「孤食」では食事を作る楽しみもないことから、食事を作らない高齢者が増え、栄養バランスの悪い食事を続けている。

**1日のすべての食事を一人で食べる頻度**




出典：2012年度食育白書

# 5 幼児パワーで高齢者

**被災地の仮設住宅では独居高齢者の生活不活発病が増えている。これを予防するために当プロジェクトが注目したのは保育所だ。高齢者が保育所に食事に来る「ほっこり食事プロジェクト」とは?**

## 保 育所にお弁当（食事）を取りに行く

公益社団法人日本栄養士会は東日本大震災の発災後2～3週間後から避難所や仮設住宅に管理栄養士の派遣を行い、健康や栄養面のサポートを行っていた。「孤食」によって起こる栄養不足を解消するためは、栄養バランスの良い弁当を作り、仮設の高齢者に宅配すればよい。しかしこれだけでは閉じこもりによる「生活不活発病（廃用症候群）」の問題が解決できない。そこで高齢者に外

（上）給食とともに楽しく語らう人々
（下）会場では血圧を測ると、高齢者の健康チェック相談も兼ねている

に出て体を動かしてもらうきっかけとして発案されたのが、管理栄養士が作った弁当を保育所で受け取る「ほっこり弁当プロジェクト」だ。

高齢者は子どもが好きなので保育所ならば喜んで来てくれるのではないか。さらに保育所には調理室があるため、空き時間を使って高齢者用の弁当を調理することもできる。そこで発案されたのが独居の高齢者に保育所まで弁当をとりにきてもらう「ほっこり弁当プロジェクト」だ。

## 笑 顔を生み出す高齢者と園児の会食

まず岩手、宮城、福島で運営検討会を行い、行政からの紹介で岩手県九戸郡野田村の野田村保育所、宮城県仙台市のあっぷる保育園、福島県いわき市の小島保育園が候補にあがった。各保育園に挨拶視察に行ったところ、各園から「弁当をとりにきてくれた高齢者をそのまま帰すのではなく、園児と一緒に食事をしてもらってはどうか」と提案があった。そのため当初の弁当受け取りから路線変更し、園内で園児と高齢者が一緒に食事するイベントを企画した。ここで「ほっこり弁当プロジェクト」から「ほっこり食事プロジェクト」に改称した。

対象とする仮設住宅は保育所から徒歩圏内を選出。野田村保育所は野田村仮設住宅、小島保育園は楢葉町上荒川仮設住宅と作町災害公営住宅、あっぷる保育園は近くの仮設住宅を予定していたがすでに5世帯しか残っていなかったため、地域の老人会に声掛けをした。

2014年10月15日、あっぷる保育園ではじめてのイベントが行われた。実際に仮設住宅を中心に声掛けを行い、13名の高齢者が参加した。高齢者が園にやってくると園児らが歓声を上げて高齢者を迎え、ダンス等を披露後、皆が笑顔で芋煮を

# を元気にするほっこり食事プロジェクト

公式ページからのかわいらしいメッセージが力になる

囲んだ。これを皮切りに月一回の頻度でイベント開催を予定している。高齢者を保育園に呼ぶイベントは他地域にも例があるが、一緒に食事をするイベントは珍しい。今後、小島保育園では「餅つき」イベントが、野田村保育所では「みずき団子づくり」イベントが行われる。今は行われなくなった伝承行事を高齢者から園児に教えてもらうことで、高齢者に生きがいや役割を感じてもらう狙いだ。

「今後は保育所が公益性を求められる時代になる。当プロジェクトによって地域との交流も広がるのではないか」という期待の声が寄せられた。独居高齢者の問題は被災地にとどまらないため、会では全国展開を見据えて事業を拡大していく。イベントでは管理栄養士が栄養手帳等に高齢者の咀嚼能力や食事量を記入し、食事のアドバイスも行う予定だ。野田村保育所の「鮭の日」のイベントには行政から保健師が派遣されることが決まった。血圧や健康状態をチェックし問題があれば医療等につなぐ。このとりくみが目指す行政や地域医療と連携した「栄養ケア・ステーション」は、今後地域生活支援の中核となっていくだろう。

「一緒に食事を食べ、外で一緒に遊びをする。高齢者とともに生きがいを感じてもらえるような場になっています」と公益社団法人日本栄養士会高齢者事業の下嶋哲之さん、事務局の遠藤野子さん

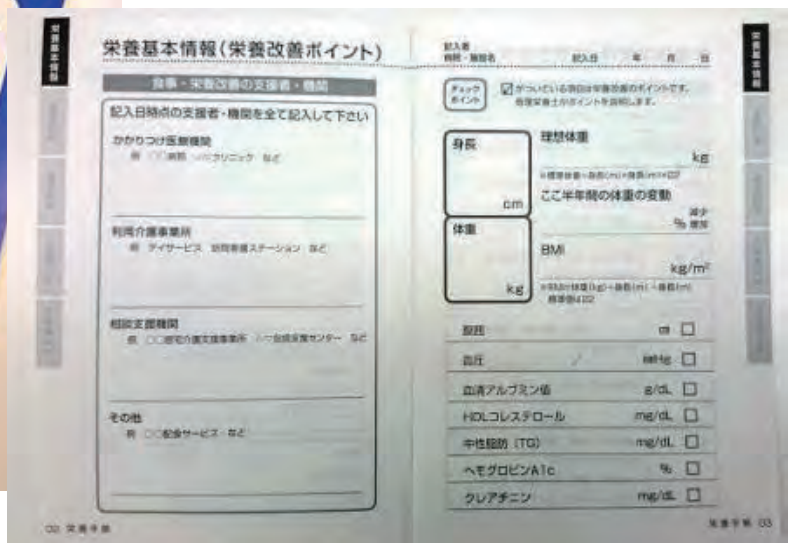
## 管理栄養士、保健師も交えた総合的な見守りへ

現在は会食イベントが開始したばかりだが、今後は弁当受け取りを軸に、他の関係者も交えた地域ぐるみで健康管理にとりくむ「栄養ケア・ステーション」へと発展させる考えだ。今年度は復興庁の事業予算で事業を実施しているが、2015年からはワンコイン程度の費用の徴収を視野に入れる。2014年10月23日には第一回企画評価委員会が行われた。委員より

**Point | 取り組みのポイント**

- 保育所の公共利用
- 弁当受け取り＋会食イベントで高齢者に外出の機会を
- 専門職が連携する「栄養ケア・ステーション」構想

監修：田中弥生
駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科　教授
南大和病院栄養部　顧問



協力：フジッコ株式会社

協力：Jミルク

公益社団法人 日本栄養士会

様式第12号（第14条関係）　　復　　命　　書

| | | |
|---|---|---|
| 第1ガイド　保健福祉<br>第2ガイド　健康予防<br>第3ガイド　健康づくり<br>ファイル名　26 脳卒中予防対策 | 決裁年月日 | 発送年月日 |
| 文書番号 | | |
| 文書日付 | | |
| **起　　案**　平成26年11月11日　電話　246<br>**所　　属**　保健課<br>**職・氏名**　主査栄養士　　岩山　啓子 | | |

| | |
|---|---|
| 標題 | 東北発！「ほっこり弁当プロジェクト in 野田村保育所」（復命） |

このことについて、次のとおり出席しましたので復命します。

（要旨等）

**1　復命者職・氏名・印**

主査栄養士　　岩山 啓子

**2　出張期間**

平成26年11月11日（火）　10：00～13：00

**3　用務**

東北発！「ほっこり弁当プロジェクト in 野田村保育所」

**4　用務先**

野田村保育所

**5　参加者**

野田村内仮設住宅入居者　13名

スタッフ：日本栄養士会2名（下浦常務理事、清水さん）

岩手県栄養士会3名（福田会長、久慈理事、庭瀬さん）

野田村住民福祉課3名（下畑栄養士、中村保健師、菊地保健師）

野田村食生活改善推進員協議会1名

**6　受命事項**

標記教室を実施すること

**7　復命要旨及び関連特記事項**

今年度3回計画のうちの初回。

仮設住宅でのイベント（小屋瀬小学校来訪）と重なり、当初3名の参加であったが、野田村の連携プレーにより、他の仮設に声掛けし、すぐに10名増えた。

お遊戯⇒手遊び⇒栄養ゲーム⇒会食　と、園児との会話で、参加者は終始ニコニコ。帰りは園児から手作りの「12月も来てね」カードをもらいとてもうれしそうな表情。

次回（12/16）は事前の声掛けを徹底することとした。

〈会食ﾒﾆｭｰ：鮭汁、いなきみごはん、豆腐ナゲット、柿なます、ほうれん草と菊のお浸し、みかん〉

**8　主要資料名**　　別添資料のとおり

（回議）

技監（所長）　　部長（次長）

保健課長　　保健推進総括主査　　課　員

（合議）

| | |
|---|---|
| 取扱区分 | 重要、例規、要県報登載、公印省略、その他（　　） |
| 発送区分 | 速達、書留、ファックス、メール、掲示板（　　）、その他（　　） |

岩　手　県

備考　回議欄は、適宜変更することができます。

岩手日報　2014年（平成26年）11月12日（水曜日）　第27807号　（日刊）

保育園児との昼食を楽しむ村の高齢者たち＝11日、野田村野田・村保育所

# 心も温か　お昼ご飯

## 仮設の高齢者が園児と触れ合い

野田村野田の村保育所（小野寺すみ所長、園児97人）で東日本大震災から3年8カ月の11日、村内の仮設住宅に住む高齢者らを招き、保育園児とのふれあい昼食会が開かれた。

日本栄養士会（東京都港区）などが、高齢者の引きこもり防止や健康維持を目的に本県では初めて開催した。

仮設住宅の住民ら13人が、約60人の園児と一緒に「サケの日」に合わせてさけ汁やキクのおひたしなど同村の食材を使ったメニューを楽しんだ。お年寄りたちは園児と食器を並べ、「おいしいね」と言い合いながら箸を進めた。

日当瀬名ちゃん（5）は「楽しかったし、また一緒に食べたい」と声を弾ませ、泉沢仮設住宅に住む水上ケエ子さん（72）は「震災で家族が別々に住むことになり、少し寂しく感じていた。親戚の子にも久しぶりに会えて楽しかった」と表情を緩めた。

様式第12号（第14条関係）　　復　　命　　書

| | | |
|---|---|---|
| 第1ガイド　保健福祉<br>第2ガイド　健康予防<br>第3ガイド　健康づくり<br>ファイル名　26 脳卒中予防対策 | 決裁年月日 | 発送年月日 |
| 文書番号 | | |
| 文書日付 | | |
| **起　　案**　平成26年12月16日　電話　246<br>**所　　属**　保健課<br>**職・氏名**　主査栄養士　　岩山　啓子 | | |
| 標題　　東北発！「ほっこり弁当プロジェクト in 野田村保育所」（復命） | | |

このことについて、次のとおり出席しましたので復命します。

（要旨等）

**1　復命者職・氏名・印**

主査栄養士　　岩山 啓子

**2　出張期間**

平成26年12月16日（火）　10：00～13：00

**3　用務**

東北発！「ほっこり弁当プロジェクト in 野田村保育所」（第2回目）

**4　用務先**

野田村保育所

**5　参加者**

野田村内仮設住宅入居者　16名（全て女性）

スタッフ：日本栄養士会2名（下浦常務理事、清水さん）

岩手県栄養士会2名（久慈理事、庭瀬さん）

野田村住民福祉課3名（下畑栄養士、菊地保健師、看護師）

野田村食生活改善推進員協議会1名（貳又会長）

**6　受命事項**

標記教室を実施すること

**7　復命要旨及び関連特記事項**

今年度3回計画のうちの2回目。

野田村保育所の事前の声掛けと、前回の岩手日報掲載の効果で、16名とまずまずの参加者。

（前回からのリピーターも多い）

お遊戯⇒手遊び⇒会食　と、園児との会話で、参加者は終始ニコニコ。帰りは園児から手作りの「クリスマスリース」をもらいとてもうれしそうな表情。

〈会食ﾒﾆｭｰ：ごはん、焼豆腐そぼろあんかけ、いんげんのごま酢和え、かぼちゃのミルク煮、茶碗蒸し、苺〉

**8　主要資料名**　　特になし

（回議）

技監（所長）　　部長（次長）

保健課長　　保健推進総括主査　　課　員

（合議）

| | |
|---|---|
| 取扱区分 | 重要、例規、要県報登載、公印省略、その他（　　） |
| 発送区分 | 速達、書留、ファックス、メール、掲示板（　　）、その他（　　） |

岩　手　県

備考　回議欄は、適宜変更することができます。

様式第12号（第14条関係）　　復　　命　　書

| | | |
|---|---|---|
| 第１ガイド　保健福祉<br>第２ガイド　健康予防<br>第３ガイド　健康づくり<br>ファイル名　26 脳卒中予防対策 | 決裁年月日 | 発送年月日 |
| 文書番号 | | |
| 文書日付 | | |
| **起　　案**　平成27年1月20日　電話　246<br>**所　　属**　保健課<br>**職・氏名**　主査栄養士　　岩山　啓子 | | |

標題　　**東北発！「ほっこり弁当プロジェクト in 野田村保育所」③（復命）**

このことについて、次のとおり出席しましたので復命します。

（要旨等）

**１　復命者職・氏名・印**

保健課長　　阿部裕子

主査栄養士　　岩山 啓子

**２　出張期間**

平成27年1月20日（火）　10：00～13：00

**３　用務**

東北発！「ほっこり弁当プロジェクト in 野田村保育所」（第３回目　※最終回）

**４　用務先**

野田村保育所

**５　参加者**

野田村内仮設住宅入居者　７名（全て女性）

スタッフ：日本栄養士会２名（下浦常務理事、清水さん）

大槌町堤保育園　芳賀園長※見学

岩手県栄養士会２名（久慈理事、庭瀬さん）

野田村住民福祉課３名（下畑栄養士、中村保健師、菊地保健師）

野田村食生活改善推進員協議会１名（貳又会長）

**６　受命事項**

標記教室を実施すること

**７　復命要旨及び関連特記事項**

今回は、参加者が「園児から踊りを見せてもらっているお礼に」と、自前衣装で大黒舞を披露。

※大黒舞は、村の有志で古くから行事･イベント等で踊られているおめでたい踊り。

84歳で、十数年ぶりに踊ったという方もいたが、ステージではしっかりした足取りと手つきで活き活きと踊りを披露。とても楽しそうで、「…してもらう」だけよりも、「参加型」の方がより喜ばれ充実しそう。

今回は、新たに「どう引き」（景品をヒモをたぐって当てるゲーム）を実施。ｱﾝﾊﾟﾝﾏﾝｸﾞｯｽﾞを引き当てて盛り上がった。来年度の実施は未定だが、保育所と連携した高齢者の健康づくりの方法はまだまだ広がりがあると思われることから、保育所や野田村と打合せながら、今後の展開方法を検討したい。

〈会食ﾒﾆｭｰ：すき昆布とﾂﾅのごはん、千草焼、ほうれん草なめ茸和え、さつま芋のﾐﾙｸ煮、お吸い物、苺〉

**８　主要資料名**　　特になし

（回議）

技監（所長）　　部長（次長）

保健課長　　保健推進総括主査　　課　員

（合議）

| | |
|---|---|
| 取扱区分 | 重要、例規、要県報登載、公印省略、その他（　　） |
| 発送区分 | 速達、書留、ファックス、メール、掲示板（　　）、その他（　　） |

岩　手　県

# 平成２６年度ほっこり弁当プロジェクト報告

報告者　千葉　礼子

| | |
|---|---|
| 日　　時 | 平成２６年１０月１５日（水）　９：４０～１２：００ |
| 会　　場 | 社会福祉法人　千代福祉会あっぷる保育園 |
| 事　業　内　容 | 【平成２６年度「新しい東北」先導モデル事業】<br>保育所を活用した生活不活発病防止食事受け取りシステムの構築事業<br>第１回目・・・芋　煮　会<br>参加人数・・・仮設居住等の高齢者・自治会長（１３名）<br>内訳男性２名女性１１名<br>宮城県栄養士会（３名）<br>～当日の流れ～<br>✧　打ち合わせ<br>✧　外で芋煮作りの手伝い<br>保育園児（食育のお話を聞いた後、豚汁の食材のこんにゃく・白菜をちぎったりしめじをさいたり、調理前の食材の匂いや感触などを体験）<br>✧　１１時にみなさん来園<br>✧　園児による荒馬の踊り保育園の歌の披露<br>✧　みんなで豚汁を頂く |
| 所　　感 | お天気にも恵まれ、楽しい時間を過ごすことができた。<br>園庭にブルーシートを敷き、園児の中に高齢者の方が加わり豚汁を頂いた。(長テーブル・椅子を用意し食事がしやすいほうで食べて頂いた)<br>豚肉を残した方がいましたが、参加者の方々は食欲不振の様子もなく召し上がっていた。<br>園児に語りかけたり、参加者同士の会話なども弾み、芋煮会を通じてみんなで食べる楽しさ、おいしさを共有できた。<br><br>次回　第２回目　焼き芋会　１１月６日（木） |

あっぷるこみゅ
平成26年 11月号
社会福祉法人 千代福祉会
あっぷる保育園

# 地域のシニアのみなさん13人と
# いも煮会

今回のいも煮会は復興庁の震災支援事業の一環として保育園施設を利用した食事提供のモデル事業を、あっぷる保育園で実施したものでした。

子ども達は白菜やこんにゃくをちぎったり、しめじほぐしなどの調理に参加♪、また、近くの建具屋さんからいただいた廃材を燃えやすいように足でボキンと小さく折る手伝いもしてくれました。

かまどに火がつくと、子ども達は興味津々で火のようすを観察、「すごいねえ！」「おいしそうだねえ！」などの声があがりました。 いちご、みかん組の子ども達は廊下から参加、ちらっと火が見えると「わあ～！すごい！」と大歓声。いも煮ができあがるまで地域の方々に荒馬と園歌を元気よく披露して喜んでいただきました。

庭にシートを敷いて、いつもと違う雰囲気で食べるお昼は格別で、おかわりをたくさんしていました。

# 各事業所の取り組み

## 平成26年度「新しい東北」先導モデル事業　あっぷる保育園

復興庁の震災支援事業の一環として、保育園施設を利用した食事提供のモデル事業を10月15日(水)あっぷる保育園で実施しました。

下荒井町内会長の堀江達郎さんのご協力をいただき地域のシニアの方々等 13 人の方が参加してくださり、さわやかな秋空の園庭で子どもたちと一緒に美味しいいも煮に舌づつみをうちました。

子どもたちは近くの建具屋さんからいただいた廃材を燃えやすいように小さくしたり、白菜やこんにゃくをちぎり、しめじほぐしなどの調理も楽しみ、庭に設置したかまどの鍋に入れておいしく煮えていくのを待ちました。

煮ている間に保育園の子どもたちが荒馬や保育園の歌を披露してシニアのみなさんに喜んでいただきました。

この事業は宮城岩手福島県で１園ずつモデル的に行われ、宮城県ではあっぷる保育園のみの事業でした。

**復興庁による「新しい東北」事業**

「新しい東北」の実現に向け、被災地で既に芽生えている先導的な取り組みを育て、被災地での横展開を進め、東北、ひいては日本のモデルとしていくため、先導的な取り組みを幅広く公募し、支援することを目的としています。

## グループホームでの食事支援・健康状態にあわせた特別食の提供　わーぷ

11月19日（水）に清風園稲垣統括栄養士を講師に迎え、『グループホームでの食事支援・健康状態にあわせた特別食の提供』をテーマに世話人内部研修会を開催しました。

食事における摂取エネルギーの適量は個々の体格や活動量によって一人ひとり違うため自分に合った適量を知ることが大切というお話から始まり、『食事バランスガイドのこま』を使った献立の作り方や、肥満・高血圧・糖尿病・高脂血症・肝機能の低下などを予防する食事についてわかりやすく説明していただきました。

グループホーム入居者も高齢化が進み、健康に不安を抱える方も増えてきています。これまで専門的な研修を受ける機会が少なかったので、世話人からもいろいろな質問が出ていました。今回の研修を活かし『旬の食材を使った健康的でおいしい食事』を心掛けた食事の提供をしていきます。

**研修会に参加しての感想**

・メイプルホーム世話人　　千田かづ子

入居者に高脂血症や糖尿病の方がいるので、病気予防食の説明を聞く事ができ良かったです。今後のホームの献立に役立てていきたいと思います。

・おれんじホーム世話人　　今西　悦子

大変素晴らしい研修会でした。テーマが興味深く分かりやすい資料も準備していただき、それぞれの病気に沿った説明の内容も分かりやすく良かったです。入居者だけでなく自分自身の為にもなりました。

# 平成２６年度ほっこり弁当プロジェクト報告

報告者　千葉　礼子

| | |
|---|---|
| 日　　時 | 平成２６年１１月６日（木）　９：００～１２：００ |
| 会　　場 | 社会福祉法人　千代福祉会あっぷる保育園 |
| 事　業　内　容 | 【平成２６年度「新しい東北」先導モデル事業】<br>保育所を活用した生活不活発病防止食事受け取りシステムの構築事業<br>第２回目・・・焼き芋会<br>参加人数・・・仮設居住等の高齢者（９名）<br>内訳女性９名<br>宮城県栄養士会（２名）<br>～当日の流れ～<br>✧　園のスタッフ８：45～火おこし<br>✧　栄養士は焼き芋のお手伝いとカレー作りに分かれる<br>✧　園児の皆さんによる踊りの披露（ソーラン節他）<br>✧　10：30 焼き芋を皆でいただく<br>✧　地域の代表の方、栄養士会からの挨拶<br>✧　11：30 カレーライス・フルーツのヨーグルト和え・ツナと野菜のマヨーネーズサラダを皆でいただく |
| 所　　感 | 園児の皆さんのほうから地域の皆さんに話かけたり、園児をひざの上に乗せてあげるなど、とても心温まる光景がありました。<br>普段なかなか園に来る機会の少ない地域の人たちと楽しく交流が図れたと感じました。<br>あっぷる保育園の職員の皆様のご協力のもと、２回にわたり行事に参加させていただきました。<br>高齢者の人たちが地域で安心して生活するための日常的な支えあいの必要性を深く感じました。<br>今後もネットワークを意識しながら活動していきたいと思います。 |

# 『ほっこり食事プロジェクト』第 3 回企画　尚絅学院大学付属幼稚園実施報告

2015/03/17　報告者　同上園長　岩倉政城

本事業は日本栄養士会が主催する平成 26 年度「新しい東北」先導モデル事業『ほっこり食事プロジェクト』第 3 回企画：保育所を活用した生活不活発化防止給食受け取りシステムの構築事業の一環として実施された。

**日時**：2015 年 3 月 3 日(火)午前 10 時～午後 1 時
**会場**：尚絅学院大学附属幼稚園(宮城県名取市ゆりが丘　仙台市隣接市)
**実施主体**：日本栄養士会・尚絅学院大学附属幼稚園
**内容**：名取市の震災被災で仮設住宅に暮らす高齢者と尚絅学院大学付属幼稚園年長園児の食を通した交流

**背景**

尚絅学院大学付属幼稚園は園児総数 136 名、6 クラスが毎月各クラスでおやつ作り活動を展開している(年間延べ 60 回余)。その目的は手作りのおやつを何にするかから始まってクラス全員で討議し決定、調理分担、配膳、共に戴く、お裾分け、片付け等の活動を通して、建学の精神「他者と共に生きる」を実践的に獲得することを目指す保育を行っていた。この活動は生活実践者としての力量を身につけるだけでなく討論を通して他者理解と共感能力をはぐくむ狙いを持っている。

そこに本学非常勤講師片倉成子栄養士が本事業の実施を打診してこられたので、園の教育理念に合致することから直ちに応じることとした。

園庭に設置されている耐火煉瓦性の大型ピザ釜でのピザ作り活動を軸に被災地仮設住宅居住の高齢者と年長園児との交流を深めるイベントとした。

**参加者**：総数 90 名(内訳：仮設住宅高齢者 20 名、年長園児 51 名、調理ボランティア 5 名(片倉氏グループ)、栄養士会 3 名、大学エクステンションセンター職員 2 名、同センターアルバイト学生 2 名、園教員 6 名、尚絅学院長 1 名。他にピザを振る舞われた年中園児 43 名の参加があった。

**調理提供食**：ピザ：生地 30 枚　トッピング（ソーセージ、チーズ、コーン）園庭で参加者と共にピザ釜で焼いて提供
味噌汁：根菜、野菜類　片倉氏畑から無料提供をボランティアが調理室で作る
給食：障害者授産所“ポッケの森”給食 30 人分)園児は当日お弁当で、ピザと味噌汁を味わった後共に昼食

の卓を囲む

**歌とゲーム交流**：ピザを味わった後に園児の歌の提供と高齢者との肩たたきゲームを行い、その後昼食会に移行した。

**結果**

被災地高齢者も園児もともにピザ作りやピザ焼きに参加して一緒に食べ、もてなす、もてなされる満足を味わった。またゲームや卓を囲む昼食会で沢山のふれあいがあり参加者・園児共にそれを楽しんだ。

本事業を呼びかけて戴いた日本栄養士会に感謝したい。

**参加者感想：被災地住民**「かわいい園児と一緒にご飯を食べ、お弁当の中身を見せてもらったりして、普段一人で食べていることが多いので嬉しかった。」、「孫のような子どもにゲームで肩を叩いてもらって、嬉しいやらかわいいやらで時間があっという間に過ぎた。」、「また来たいけどいいですか。」、「夫婦でピザ釜に入れて焼いてみてうまく焼けて楽しい時間だった。」

**園児**：「おじいさんと握手したのは初めて」、「沢山のおじいさんやおばあさんに会えて良かった」、「お代わりどうですかというと喜んで『お願いします』といわれ役に立てた」、「一緒に食事をするとこっちまでおいしい」、「一緒に食べた味噌汁がおいしかった。」、「肩を叩いてあげて喜んでもらえてボクの方が嬉しかった」。

**教師**：「日頃おやつ作りでなれている園児は普段触れ合うことの少ないおじいさんおばあさんたちと関わって楽しんだだけでなく、自信を持って堂々と『もてなし』をし、その成長ぶりに感動した。」

**反省**

ボランティアや栄養士会がかいがいしく働いたため、結果的に仮設からの高齢者が「お客」になりがちであった。

現代は食品産業が食を席巻する傾向にあり、異物混入や有害食品が出回る時代である。だからこそ本園では畑活動を重視し、給食業者と園児のふれあいを大切にしている。60 回のおやつ作り活動もそんな趣旨で行っている。畑の放射能の除染をし、測定値を明示して保護者からの合意のもとに収穫物を食べてきたのもそのためである。

こんな時代こそ「作り手と食べ手」の距離を縮め、融合するように働きかけることがたいせつである。改めてこの時代に即した栄養士の社会的役割とファチリテーター機能を磨く必要があろう。

園としては「行事」として取り組み、まだ保育活動に位置づけるところまでは行かなかった。また、一時的に高齢者との交流を深めたとはいえ、その持続や発展をどのように図っていくかは課題のまま残った。

## まとめ

被災から4年、未だに仮設住宅で不自由な生活をしている多くのお年寄りが孤食、あるいは老夫婦二人で食事をしている日々である。

一般に被災者への食支援のステージは第一の短期から第三の長期に分けられているが、私は第四ステージを設ける必要があると感じている(下表参照)。

**災害と食支援のステージ区分**(岩倉)

(科学技術動向研究センターの区分に心理状態と第四ステージを追加2015)

| ステージ区分 | 第一ステージ | 第二ステージ | 第三ステージ | 第四ステージ |
|---|---|---|---|---|
| 期間 | 短期 | 中期 | 長期 | 定住準備期 |
| | 災害発生～数日 | 数日～数週間 | 数週間～数ヶ月 | 数ヶ月～数年 |
| 調理環境 | ×ライフライン | ×調理設備 | 充足 | 充足 |
| 心理状態 | 高揚 | 失意 | 無気力 | 孤立と孤独 |

それは孤食などの“卓を囲む喜び”の喪失である。比較的大世帯で暮らしていた人々が狭隘な仮設住宅に住み、身を潜めながら暮らす日々は未来への展望も開けず、精神的にも追い詰められ孤独や孤立に苛まれる傾向にある。

今回の活動は一時的にせよ“I am not alone”と、社会に窓を開く効果があった。園児とお年寄りが世代を超えて”共に調理し、共に焼き、もてなし合い、共に食し、共に片付ける“という、食を縦糸にした人と人のつながりを紡いだからである。

このイベントで一時的にもたらされた効果を維持発展させていく課題を我々幼稚園も担い、それはまた栄養士会の課題でもあろう。

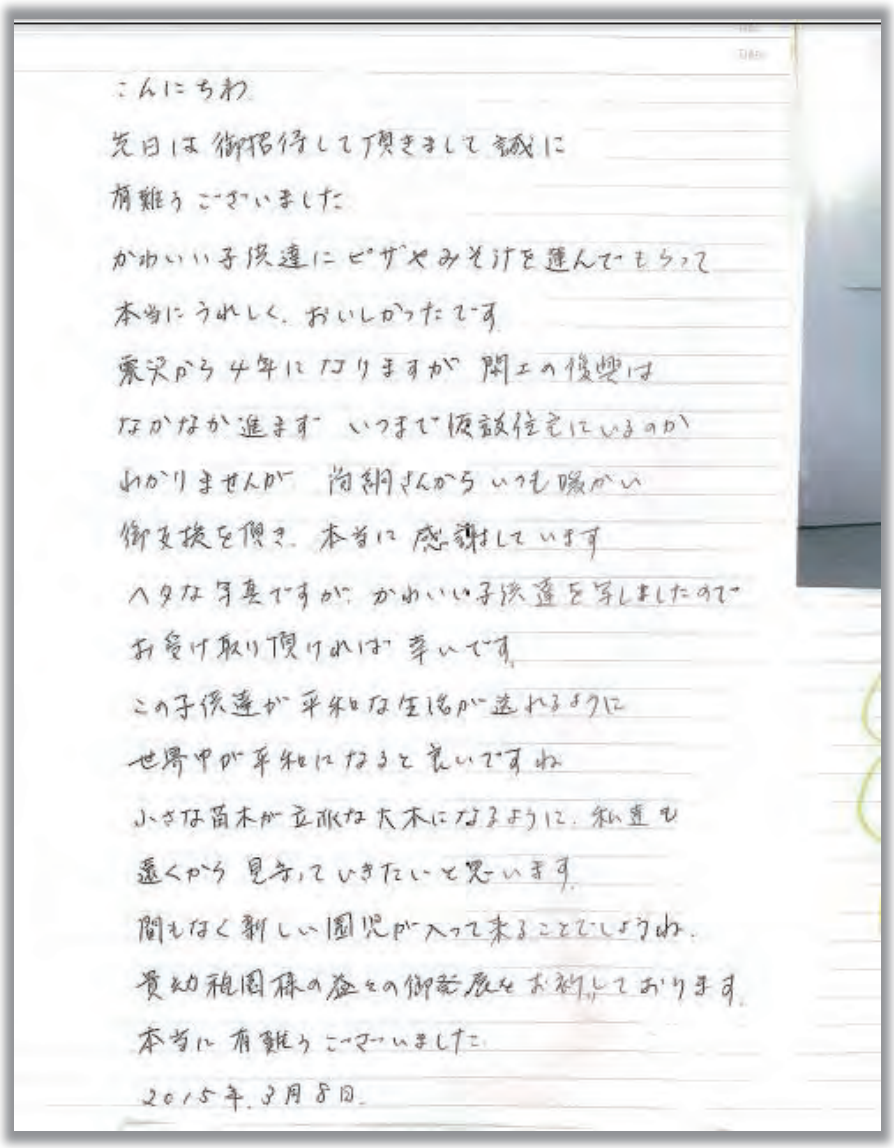
震災4年の今、食が人と人をつなぐ側面に軸足を移して今後の活動が展開されることが必要である。

## 謝辞

このたび、栄養士会からの申し出で、思いがけず園の食活動と地域交流の発展に寄与する機会を与えて戴いた。多くの大人が目に見えて関与するイベントを園児が間の当たりすることで“僕たち子どもは多くの大人に支えられているという実感からの学びができた。社会に出て行く子どもにとって生きる確信と自分の果たす役割を自覚した活動であった。

また、園としては栄養士会の高い能力に依存しながら活動を進めることが活動の枠を今まで以上に大きなものにしていけることを学んだ。　「他者と共に生きる」の建学精神を更に発展させる指針を戴けたことに感謝する。

※参加された方からお礼のお手紙をいただきました。↓↓↓



こんにちわ
先日は御招待して頂きまして誠に
有難うございました
かわいい子供達にピザやみそ汁を運んでもらって
本当にうれしく、おいしかったです
震災から4年になりますが 関工の復興は
なかなか進ます いつまで仮設住宅にいるのか
わかりませんが 尚絅さんからいつも暖かい
御支援を頂き、本当に感謝しています
ヘタな写真ですが かわいい子供達を写しましたので
お受け取り頂ければ幸いです。
この子供達が平和な生活が送れるように
世界中が平和になると良いですね
小さな苗木が立派な大木になるように、私達も
遠くから見守っていきたいと思います。
間もなく新しい園児が入って来ることでしょうね。
貴幼稚園様の益々の御発展をお祈りしております。
本当に有難うございました
2015年3月8日

# 報　告　書

平成26年12月1日
福島県栄養士会　加藤すみ子

平成26年度「新しい東北」先導モデル事業「東北発！ほっこり弁当プロジェクト」３回コースの第１回目が終わりましたので、下記の通り報告致します。

１）　実施日時　　平成26年11月28日（金）　9:30～14:00

２）　実施場所　　小島保育園　園庭及び園舎

３）　参加者
- 小島保育園（園児：108名と職員）
- 楢葉町作町仮設住宅より10名（男性2名・女性8名）＋楢葉行政より半谷氏
- いわき福音協会より　新妻理事
- 日本栄養士会より2名（下浦常務・清水氏）
  福島県栄養士会より3名（いわき福音協会勤務：岩見・為永・加藤）

４）　目　的
- 仮設住宅住民の生活不活発病防止の取り組みとして、住民が保育園に出向き園児との交流をする事で外出する機会を増やす。
- 来園時に園児と食を囲み交流をするのと同時に、栄養や食事面での相談を受け住民の健康の維持・増進および生活の質の向上を目指す。

５）　内　容

9:00　マイクロバスにて仮設住宅へお迎え（9:10発）

9:45～　はじめの会
- あいさつ（教室にて）
  （公社）日本栄養士会　下浦 佳之 常務理事
  楢葉町作町仮設住宅　結城 政重 自治会長
  （社福）いわき福音協会　新妻 登 理事
- 本日の説明（パンフ参照）

10:00～　餅つき会開始
つき手→男性5名（楢葉より2名、園長、理事、栄養士会）
かえし手→楢葉女性1名
ちぎり手→楢葉7名、保育士、栄養士
食事準備→調理師3名、保育士
園児参加→各学年入れ替えにて参加

11:20～　配膳開始
年中、年長児と2階教室にて会食会

12:30～　片づけ、休憩

13:00～　保育士による食育のお話（おもちが出来るまで）
栄養相談及び年中児との交流遊び

13:50　おわりの会（年中児と楢葉住民）
- 記念撮影
- 年中児よりメダル授与
- クリスマス祝会のご招待（招待状、リボン、座席表を渡す）

14:00　お見送り　マイクロバスにて仮設住宅へ

14:10～　スタッフ反省会
日本栄養士会2名、いわき福音協会栄養士2名、小島保育園2名

６）　感　想

◇ 楢葉の方々と園児の自然な交流が出来ており、どちらもとても楽しそうだった。
→年齢的な特性を生かし、年中児を交流対象としてくれた園の配慮が大きかった。
→随所で園側の臨機応変な対応があり、おもてなしの心遣いが感じられた。

◇ 楢葉の方々の中で餅つきの役割分担が出来ており、スムーズな動きだった。
→案内時の「餅つきを手伝って欲しい」という声掛けに対応してくれたと思われる。

◇ 栄養相談は、住民の方々の話を傾聴する事に重点をおいた。
- 外出する機会が減り、体重が5kg増加し糖尿病が悪化した夫の介護に疲れた。今は自分も睡眠薬がないと眠れない状態。施設利用時はドロドロの食事なので噛むことが出来なくなってしまうのではないかと心配。
- 家族がバラバラに生活しており仮設では一人の食事。また一緒に暮らせるか不安。
- 比較的立地条件の良い仮設なので食材調達には困らないが、やはり以前のように欲しいと思う食材は選べない。

などが主な内容だった。

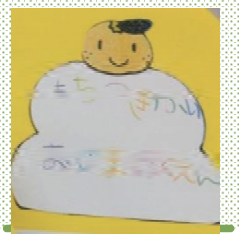
7） その他

- 報道関係→福島民報、福島民友、いわき民法の3社が来園し取材あり（2社翌日掲載）
- 「えんだより」12月1日発行に実施状況を掲載（HP掲載あり）

8） 写 真

《本日のメニュー》

- お雑煮
- からめ餅
  - あんこ
  - 納豆
  - きなこ
  - いそべ
  - 大根おろし
- ほうれん草のじゃこ和え
- お茶



平成26年度「新しい東北」先導モデル事業
東北発！ほっこり弁当プロジェクト

## 小島保育園　おもちつき会

| | |
|---|---|
| 9:30～ | 参観 |
| 10:00～ | おもちつき会 |
| 11:15～ | 会食会 |
| 13:00～ | 栄養相談＆交流 |
| 14:00 | 終了 |

本日は、小島保育園の「おもちつき会」にご参加いただきありがとうございます。餅つきを通して、園児たちとの楽しいひと時をお過ごしいただければ幸いです。

公益社団法人　日本栄養士会
公益社団法人　福島県栄養士会
社会福祉法人　いわき福音協会

# おもちつき会

日時：平成26年11月28日（金）
　　10:00～14:00
場所：小島保育園

社会福祉法人いわき福音協

日本栄養士会主催

平成26年度「新しい東北」先導モデル事業
東北発！ほっこり弁当プロジェクト

# 餅つき会のご案内

〈日　時〉
平成26年11月28日（金）
10:00 ～ 14:00

〈場　所〉
小島保育所（雨天決行）

〈内　容〉
餅つき・会食会
栄養相談　など

〈持ち物〉
エプロン、三角巾など

〈送迎バス〉
9:10　作町仮設住宅発
14:00　小島保育園発

小島保育園児　⇒　楢葉仮設住宅への案内カード　　2014.11.12届け

福島民報

# 園児と餅つきで交流

## いわきに避難の楢葉町民

餅つきで交流する入居者と園児

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故でいわき市に避難する楢葉町民と同市の保育園児の交流イベントが二十八日、同市の小島保育園で開かれ、餅つきを通して交流した。

復興庁の「新しい東北」先導モデル事業の一環で、日本栄養士会の主催。町民に元気になってほしいと企画した。同市の作町一丁目仮設住宅から招いた町民約十人と園児約百人が参加した。会場には子どもたちの「よいしょ！よいしょ！」の掛け声が響いた。臼ときねを使った、つきたてのお餅をきな粉やあんこなどにつけて味わった。

終了後、栄養相談会が開かれ、町民がバランスの良い食事の大切さを学んだ。

同仮設住宅自治会長の結城政重さん(六七)は「子どもたちの笑顔に元気をもらった。気持ちが明るくなった」と話した。

福島民友

2014年(平成26年)11月29日(土曜日)

# 餅つきで園児と交流

## いわきの仮設 楢葉町民を招待

東京電力福島第1原発事故により、仮設住宅で避難生活を送る楢葉町民を招待した日本栄養士会の「もちつき会」は28日、いわき市の小島保育園で開かれ、参加者が餅つきを通して交流を深めた。

楢葉町民と共に餅を頬張り、笑顔を浮かべる園児たち

同会は復興庁の新しい東北先進モデル事業として、震災で甚大な被害を受けた本県や岩手、宮城両県の仮設住宅住民を対象に「食」の大切さなどを伝えている。今回は、仮設住宅の高齢者を招待し、園児との触れ合いの場を提供した。

楢葉作町応急仮設住宅の住民10人と園児約110人が参加し、千本ぎねを使った餅つきを楽しんだ。出来たての餅はきな粉やあんこをまぶして味わった。

管理栄養士による相談も行われた。同仮設住宅の結城政重さんは「長い避難生活でストレスを抱える町民も多い。今日は昔を思い出して楽しめた」と話した。

# わがまち情報コミュニティー

## 園児、仮設入居者が交流深める

### 小島保育園でもちつき楽しむ

日本栄養士会（小松龍史会長）は11月28日、小島保育園（山際量園長）で餅（もち）つき会を行い、108人の園児と楢葉町作町一丁目応急仮設住宅で生活する10人が一緒に餅つきを楽しんだ。仮設住宅入居者の栄養の偏りや引きこもりを予防しようという事業の一環として全国に先駆けて行われた試みで、子どもたちと入居者がふれあいを深め、楽しいひとときを過ごした。

事業名称は「『新しい東北』先導モデル事業　東北発！ほっこり弁当プロジェクト」で、生活不活発病の防止のため、被災地域の栄養士会と協力し、地域の保育園を活用した給食受け取りシステムを構築しようというもの。子どもたちとの交流を張り合いにしてもらうことで外出を促し、給食を通してバランスのとれた食事をとってもらうことを狙いにし、復興庁の採択を受けている。

今回は同保育園を運営するいわき福音協会が全面協力。園の行事に組み込み、交流を深めてもらうことにし、餅つき会の実施に合わせて入居者を招待し、協会に所属する栄養士を派遣した。

園児と入居者が餅つきで交流した

餅つき会では、子どもたちも千本きねを手に餅つきを体験するとともに、入居者がきねでつく様子を見守り、「よいしょよいしょ」と声を掛けた。ついた餅は入居者と栄養士、保育士たちが子どもたちが食べやすい大きさにちぎり、納豆、きなこ、あんなどの味を付けた。

つきたての餅をおいしくみんなで味わった

会食が行われ、園児たちと入居者が一緒に味を付けた餅や雑煮を食べ、つきたてのおいしさを味わった。参加した結城政重さん（67）は「元気な子どもたちと接するとストレスが解消され、元気が出る。来てよかった」と笑顔を見せた。

同会の下浦佳之常務理事は「これをきっかけに、新たな交流の場、生きがいが生まれることにつながればうれしい。ここをモデルに、全国に広げていきたい」と話した。

同園では今後も交流を継続させていくことにしており、クリスマス会や、1月に行う伝承遊びでも入居者を招く。

# 報　告　書

平成26年12月15日
福島県栄養士会　加藤すみ子

平成26年度「新しい東北」先導モデル事業「東北発！ほっこり弁当プロジェクト」３回コースの第２回目が終わりましたので、下記の通り報告致します。

１）　実施日時　　平成26年12月14日（日）　9:30～12:00

２）　実施場所　　いわき市文化センター大ホール

３）　参加者
- 小島保育園（園児：108名とその家族、職員）
- 楢葉町作町仮設住宅より5名（男性2名・女性3名）
- いわき福音協会より　海野理事長　黒田牧師
- 日本栄養士会より2名（清水氏）
  福島県栄養士会より3名（いわき福音協会勤務：岩見・為永・加藤）

４）　内容
- クリスマス祝会（発表会）鑑賞（小島保育園→楢葉住民）
- クリスマスカード作成（楢葉住民→小島保育園）
- ほっこり弁当配布（栄養士会→楢葉住民）

５）　感想
- 前回終了時に、今回のご案内状とプログラムを配布し参加を募った。
- 次回に繋がるよう、前回の写真と新聞掲載記事を紙面にまとめて関係者に配布し
- 約1週間前の参加人数確認時点で少数のため、追加の募集を行政にも働きかけた。
- 弁当作成は、当法人弁当部(就労支援A型)に依頼。栄養士介入にて献立を決めた。
- 小島保育園に、クリスマス祝会進行時、楢葉住民との交流の紹介をお願いした。
- 参加人数がギリギリまで確定せず、バスの手配や弁当数などの調整に難航した。
  （前日の時点で、自家用車での来場が確定したためバスはキャンセルした）
- 参加者数が5名に留まったのは、休日や衆議院選挙投票日など日程の影響も大きい
  当初の予定は7名だったが、体調不良でキャンセルが2名でたとの事。
- 参加メンバーを見ると、1回目に参加した人が今回に繋がった様子だった。
  前回の交流があったため、会話からは鑑賞時も親近感があったように感じられた
- 今回の弁当配布時に、3回目の日程を伝え参加を促した。
- 予定していた参加人数には至らなかったが、参加者の反応は良かったので、次回繋がるようフォローしていきたい。

６）　写真

楢葉住民の招

<ほっこり弁当>
- いなり寿司
- メバルの竜田揚げ

日本栄養士会主催
平成26年度「新しい東北」先導モデル事業
東北初！ほっこり弁当プロジェクト

日本栄養士会主催
平成26年度「新しい東北」先導モデル事業
東北初！ほっこり弁当プロジェクト

日本栄養士会主催
平成26年度「新しい東北」先導モデル事業
東北初！ほっこり弁当プロジェクト

Merry Christmas
日本栄養士会主催
平成26年度「新しい東北」先導モデル事業
東北初！ほっこり弁当プロジェクト

日本栄養士会主催
平成26年度「新しい東北」先導モデル事業
東北初！ほっこり弁当プロジェクト

# ほっこり弁当

本日は、小島保育園の「クリスマス祝会」にご参加いただきありがとうございました。

3回目のほっこり弁当プロジェクトは、**1月22日（木）**です。子供達と一緒に伝承遊びをしましょう！！

弁当販売　福祉サービス事業所 つばさ
いわき市平字新川町36-1
TEL:0246-24-7025
FAX:0246-24-7027

ほっこり弁当プロジェクト　3回目『伝承遊び』

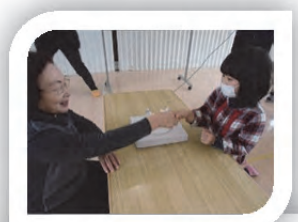
1）開催日　：　平成27年1月22日（木）　10:00～13:00
2）開催場所　：　小島保育園　遊戯室
3）目　的　：　平成26年度「新しい東北」先進モデル事業として、保育所を活用した生活不活発病防止給食受け取りシステムを構築する。
（通称：ほっこり弁当プロジェクト）
3）参加者　：　○楢葉作町仮設住宅住民　約10名
○小島保育園年長児　17名
○（社福）いわき福音協会　新妻　登　理事
○復興庁より　日原（ひはら）　知己（ともみ）　参事官（女性）
櫻井（さくらい）　公彦（きみひこ）　参事官補佐（男性）
○（公社）日本栄養士会　清水　祥子
○（公社）福島県栄養士会　岩見　裕子　為永　公子
加藤　すみ子
4）移　動　：　マイクロバスにて送迎
・福島療護園バス借用　（運転：松本　光司　）
・ 9:30　作町仮設住宅発　・13:00　小島保育園発
5）タイムスケジュール
9:20　楢葉作町仮設住宅へお迎え（マイクロバス：松本、岩見）
9:30　仮設住宅出発
9:50　小島保育園着
9:55　挨拶
・復興庁　日原　知己　参事官
・楢葉町作町仮設住宅自治会　会長　結城　政重　様
・社会福祉法人いわき福音協会　理事　新妻　登
10:10　伝承遊び「紙相撲大会」　遊戯室
11:10　片づけ
11:20　会食会（年長児との会食）
12:00　栄養相談及び伝承遊び
13:00　お見送り
15:30～　本部にて反省会
6）主　催　公益社団法人　日本栄養士会
公益社団法人　福島県栄養士会

# ほっこり弁当プロジェクト　3回目『伝承遊び』(平成27年1月22日)

力士作り

紙の力士に色を塗り、
しこ名を書きます。

上位３名



《紙相撲大会》
対戦相手とごあいさつ
勝負の世界は厳しく！

《伝承遊び＆栄養相談》
食事の後は、「かるた」や「すごろく」「こま」「だるま落とし」「あやとり」など、コーナー毎に色々な遊びをしました。別コーナーでは栄養相談もあり、食習慣を見直すきっかけになった様です。

毛糸で作ったかわいいタワシをたくさんいただきました。

《お礼》
　楢葉町の皆さん、小島保育園の皆さん、「ほっこり弁当プロジェクト」にご参加いただき、本当にありがとうございました。
　これからも交流を進めていけるよう、企画していきたいと思いますので宜しくお願い致します。

日本栄養士会・福島県栄養士会
いわき福音協会

平成27年1月24日　福島民報

紙相撲を通して交流する参加者

# 園児と紙相撲で交流

## いわきに避難の楢葉町民

## 高齢者支援でモデル事業

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の影響で楢葉町からいわき市の仮設住宅に避難している高齢者が、市内の園児と交流する「東北発！ほっこり弁当プロジェクト」の最終回は二十二日、市内の小島保育園で行われ、紙相撲で交流した。

日本栄養士会と県栄養士会の主催、いわき福音協会の協力。復興庁の「新しい東北」先導モデル事業として昨年十一月から同市の作町仮設住宅に住む楢葉町民と同園児の交流を行っており、今回が全三回の最終回。合わせて約三十人が参加した。

高齢者と園児は紙に色を塗って関取を模した形に切り取り、それぞれ名前をつけてトーナメント戦で優勝を決めた。

復興庁の日原知己参事官と桜井公彦参事官補佐も参加し一緒に交流した。

### 活動成果は今後に反映

日本栄養士会では今後、全国規模での一人暮らし高齢者の支援活動を計画しており、今回の結果を反映させるという。三回全てに参加した楢葉町の楠ヨシノさん(七五)は「普段は一人暮らしなのでとても楽しかった」と満足げに話していた。

# 園児が伝承遊び会食を楽しむ

## 小島保育園で弁当プロジェクト

日本栄養士会（小島龍史会長）の「東北発！ほっこり弁当プロジェクト」の第3弾として、伝承遊びが22日、小島保育園で行われた。

同プロジェクトは、仮設住宅入居者の栄養の偏りや引きこもりを予防し、生活不活発病の防止のため、被災地域の栄養士会と協力して地域の保育園を活用した給食受け取りシステムを構築しようというもの。復興庁の採択を受け、全国に先駆けて昨年11月にスタートした。

参加者は子どもたちとの交流を楽しみ、一緒に栄養のバランスのとれた給食を楽しんでいる。今回も、楢葉町作町二丁目応急仮設住宅で生活する10人が同園を訪れた。

伝承遊びで取り組んだのが、紙相撲。それぞれに手作りし、園児も大人も入り交じって、トーナメント方式の紙相撲大会も開催した。

折しも大相撲初場所の会期中とあって、本物に負けじと盛り上げる参加者。それぞれに白熱した戦いを繰り広げ、笑いに大盛り上がりとなった紙相撲大会

会食では、ご飯、みそ汁、豚肉のマーマレード焼きが提供され、みんなで楽しく味わった。

# 「ほっこり弁当プロジェクト」反省会

日　時　：　平成 27 年 1 月 22 日」（木）
　　13:00～14:30　小島保育園にて　15:30～17:00　カナン村にて
　　※時間と参加者の関係により、2 回にわたり実施した

| | | | |
|---|---|---|---|
| 参加者 | 復興庁 | | 日原（ひはら）　知己（ともみ）参事官 |
| | | | 櫻井（さくらい）　公彦（きみひこ）参事官補佐 |
| | 楢葉町いわき出張所　生活支援課 | | 半谷　喜代美　氏 |
| | 小島保育園 | 主任保育士 | 伊藤　美智子 |
| | 〃 | 副主任保育士 | 渡邊　美紀 |
| | 福島整肢療護園 | 管理栄養士 | 為永　公子（いわき福音協会） |
| | 日本栄養士会 | 事務局 | 清水　祥子 |
| | 福島県栄養士会 | 担当栄養士 | 加藤　すみ子（いわき福音協会） |

内　容　：　平成 26 年度「新しい東北」先進モデル事業
　　保育所を活用した生活不活発病防止給食受け取りシステム
　　（通称：ほっこり弁当プロジェクト）運営、実施について

１）企画～実施まで

- 初期の企画内容（保育所厨房の空き時間を活用して部外者が調理）では、行政上の指導により開催不可能となった為、昼食をはさんでの交流会形式とした。
- 保育園への協力要請は、日栄の担当理事と事務局、担当栄養士で実施。また、法人全体での協力体制をとるため、理事長への挨拶も実施。
- 保育園との打ち合わせで、交流会内容は保育園行事に合わせての開催（11・１２・1 月の計 3 回）とした。受入れ人数は、保育園改修工事の関係もあり 10 名/回程度とした。
- 仮設住宅と保育園間の移動は送迎が必要な距離だった為、送迎バスと運転手の手配をした（借用及び依頼書作成）。交通費は最終回での請求とした。
- 対象自治体で、日栄担当理事、事務局、担当栄養士で説明と協力要請をし、対象仮設住宅の自治会長の紹介を得た。
- 仮設住宅住民への参加を呼び掛けるため、案内ちらしを作成し配布してもらった。
- 保育園と仮設住宅との連絡調整を行いながら、協力栄養士と送迎担当者への情報発信をした。
- 保育園保護者への連絡は、保育園にて実施。県栄養士会、市の子育て支援課への報

告は担当栄養士が実施した。

- 記者クラブへの取材依頼をし、ほっこり弁当プロジェクトの PR をした。
- 写真掲載等の承諾については、口頭にて初回実施時に確認。園側の保護者確認は入園時にしてあるとの事。

2）実施について

- 1 回目の餅つき、2 日目の発表会鑑賞、3 回目の伝承遊び全てに参加した人は 4～5 名で、その他は毎回違う人の参加だった。
- 当初、参加者の名簿作成を考えていたが、毎回、当日にならないと参加者の把握ができなかった事もあり、名簿作成はしなかった。
- 園児との交流は、保育士の臨機応変な声掛けもあり、自然な形で交流できていた。（保育士さんに感謝）
- 1 回目の餅つきは大変盛り上がったが、参加者は疲労感が残ったとの事。3 回目は実施時間を短めに設定してほしいとの要望があった。餅つき（4 時間半）→伝承遊び（3 時間 15 分）に短縮。
- 3 回目の伝承遊びでは活動班と食事班が一緒だったので、各班とも会話が弾んでいたように思う。
- 今回の企画は、保育園に来てもらう事での.引きこもり予防を重視したため、あえて栄養指導は控えめの設定にした。また、栄養相談に当たっては傾聴する姿勢を心がけ、言葉使いには十分配慮した。

3）栄養相談より

- 仮設住宅が便利な場所に立地しており買い物等で困ったことはないが、以前（震災前）と違い食事を作って食べる気になれない。
- お弁当やお惣菜を買って食べる生活が多く、行動範囲も以前に比べると少なくなっているせいか、体重が 5kg も太った。
- お腹周りがすっきりしない。
- 配偶者の介護をしており、心身ともに疲弊している。
- 子供や孫と離れての生活なので寂しい。あまり食欲がわかない。
-

4）反省会

- 地方で事業を展開するには、移動手段（送迎）を考慮する必要がある。
- 今後は、県で拠点となる保育所（園）を数か所置き、地域高齢者との事業を展開してはどうか？
- 交流会は、保育園と仮設住宅で行えばすむ。栄養士会が関わる意義を示さないと

事業の意味合いがなくなる。

- 今回は無料での参加だったが、今後はワンコイン（500 円）程度の参加費をもらっての運営にしてはどうか。
- せっかく縁ができたので、できれば今後も継続していきたい。今度は、お散歩がてら園児が仮設住宅を訪問するなどして、年間を通して交流していくと顔なじみになるのでは。
- 核家族も多いので、高齢者と保育園の交流はお互いに刺激がある。餅つきなど伝統行事は、特に伝承してもらいたい。

5）経費について

- 参加者の食材料費、送迎バスの燃料代は、保育園や事業所の立て替え払いとし、後日日栄へ請求する形とした。
- 2 回目のほっこり弁当（就労継続 A 型事業所）は事業所へ直接支払う形とした。

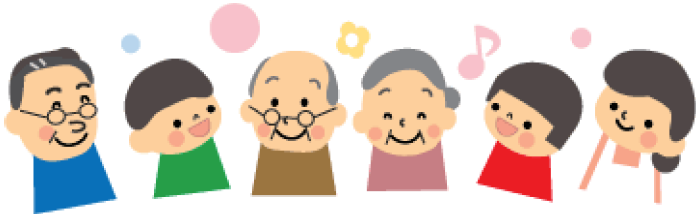
# Ⅷ　ほっこり話

今回のほっこり食事プロジェクト実施に当たり、私どもが経験した「ほっこりした話」をほんの一部ですが、まとめてみました。会話内容も含めて記載いたしましたので、皆様も「ほっこり」した雰囲気を味わっていただければ幸いです。

　プロジェクトの会場に園児の大きな声で「たえこさ～ん、たえこさーん」の声が響き渡ります。保育士の先生方は「誰を呼んでいるのです？」と。園児にそんな名前の子はいませんし、保育士の中にも…
　叫んでいる園児の方を見ると高齢者の一人を呼んでおり、それに呼応するように高齢者の方が呼ばれた園児にうれしそうに歩み寄っている光景が見られました。
　まるでお友達同士の表情。それもそのはず。この事業も2回目を迎え、1回目に平仮名の名札（〇〇たえこ）をつけられた高齢者とお友達になり、名前を呼び合っています。ほっこり。

　仮設住宅の高齢者に餅つき大会への参加とお手伝いをお願いしました。当日、服装等の準備をお願いしたわけでもなく、きちんとエプロン、三角巾（ほっかむり？）マスク持参で準備万端。園児に食べさせるにはきちんと衛生的にしませんとね」と皆さんで話し合われたとか。いつもなら園長先生が杵（きね）で一臼（うす）つくのがやっとのところ、今回はみんなのかけ声「よいしょ、よいしょう」の応援もあり、三臼（うす）もつけました。
　お餅も柔らかく、いつもより、おいしかったとの評価（園長先生が悪いわけではありません。園長先生の愛情に皆さんの愛情がプラスしたためより美味しくなりました。）
　また、いつもなら、お餅をのどに詰めてはいけないとの配慮で、食べられない年少の園児にも「つぶし？（蒸した餅米をつく前に杵（きね）で少し突いてつぶしこねた状態）なら、大丈夫。小さな園児でも、のどに詰まることなく食べられますよ」という高齢者の一言で、主任保育士さんが、みんなのお口に「あ～ん」。まるでツバメのお母さんが、ヒナに食事を与えるようにほほえましい光景。ほっこり。

食事を食べる際の出来事。
　園児たちはいつものとおり「食事の前に手を洗いましょう」と先生に促されて洗面台へ、高齢者の方はじっと身動きせず座ったまま。そこへ、園児の一人が「おばあちゃんたちも食事の前に手を洗わないといけませんよ」と一言。「そうだ、そうですね。食事の前には、ちゃんと手を洗わないといけませんね」と高齢者の方が次々と立ち上がります。園長先生、保育士、スタッフ苦笑い。ほっこり。



　餅つき大会に参加された高齢者から、「震災前はみんな自宅でお餅つきをしていましたが、今はできません。仮設住宅では、ボランティアの方が来られてお餅つきをしますが、私たち（被災者）は見ているだけで、できあがったお餅を食べるだけ。今回は3年ぶりに、私たちが園児のためにお餅をつき、だんごにとりわけ、喜んでもらいました。楽しかったですし、お役に立つことができて、うれしかった」とのこと。
　確かに保育士の先生方もびっくりの段取りのよさ。参加者の皆さんは、事前に話し合いをされて役割を決めておられたようで、餅つきの搗（つ）き手、返し手の絶妙な掛け合い、子供の一口大程度のおもちを親指と人差し指で作った輪を締めて切り分けるちぎり手、あんこやきな粉、ずんだ、納豆、おろし大根等の中に入れていきます。そのとりわけの手際のよさ、盛りつけ等、最後の臼（うす）・杵（きね）の片付けまできちんとお手伝いいただきました。というより、殆どやっていただきました。おまけに保育園のお正月用の鏡餅まで上手に作っていただきました。
　皆さん、生き生きと大活躍。「久々に動かれて、お体、大丈夫ですか？」、「昔からやっているから大丈夫ですよ」と聴いて一安心。後日、お世話いただいた方より「やはり体に痛みが」すみません。無理させてしまいました。
でも、何よりも園児と皆さんの笑顔でほっこり。

　ほっこり食事プロジェクトの最終日。
「今まで園児から歌や踊りの披露、食事も頂いてとっても楽しかったです。そのお返しをしたいのですが」、との申し出がありました。「私たちにできることは、「大黒舞（だいこくまい）」というこの地方に伝わる伝統の踊りを披露することぐらいですけれど、いいですか？」高齢者の有り難いお言葉に是非、お願いしたいとのことで、御披露していただきました。早朝に自ら衣装、小道具等持参され、「大黒舞」衣装への着替え、お化粧（ほお紅は保育所の折り紙で）等、開演までに大忙し。
　音楽が流れ軽快な手の振り、足はこびで、ふだん歩いておられる姿からは想像できない（失礼な言い方ですみません）くらい！さっ爽とした踊りに、園児たちから自然と手拍子が．．．。会場に手拍子の輪が広がります。ほっこり。

　大黒舞を御披露いただいたお一人の高齢者。「７４歳ぐらいまで踊りをしていましたが、その後は全くしておらず踊れるか不安だった（全くそれを感じませんでした）昔から引き継いだ衣装を3着持っていましたが、震災の津波で、なくなってしまいました。今回は友人に衣装を借りて約10年ぶりに踊りました。」とのこと。「今日は皆さんに見ていただいて、うれしかったです。私にも、まだまだできることがあるんですね」と。
　その後、保健師さんによる健康チェック時に、保健師さんからその方について伺ったお話。「日頃、あの方は物静かで口数は少なく、ほとんど御自身のことを話されない方ですのに、今日の表情は朗らかで、生き生きとされており、自分のこれまでの経験を一生懸命お話しされ、びっくりしました」とのこと。ほっこり。

焼き芋大会での出来事。
　園長先生大活躍で、焼き芋が焼き上がり、高齢者の方には正座は無理（お膝の痛み等の関係）とのことで、パイプいすを準備して、座って食べていただきました。そこへ、ちゃっかりとおばあちゃま（当然、身内のおばあちゃんではありません）のお膝へ座る園児の姿。ほっこり。

ピザ釜を使ってのほっこり食事プロジェクト実施での出来事。
　日頃余り活動的でない御主人に、少しでも動いてもらえたらという奥様が、これがチャンスと御夫婦で参加。園長先生の促しもあり、夫婦でピザ釜を使ってのピザ作り体験。御主人も積極的にピザ釜の前でピザ焼きに挑戦。特注ピザピール（ピザ生地を石窯（いしがま）に投入する際に使う道具。ピザをのっけるヘラ。しゃもじの大きくてなが～いの）によって生地を釜に入れ、焼けるまで２～３分。「焦げた～、いい感じ～」と出来上がりも上々。わいわいと楽しい時間を過ごされました。
　園児は「一緒に食事をすると、こっちまでおいしい」ほっこり。

以上、今回のプロジェクトで「ほっこり」した、ほんの一部のお話をまとめてみました。これだけでなく、今回のプロジェクトのいろいろな場面で、園児、高齢者（参加者）、保育士、スタッフ等、それぞれの心の中で「ほっこり」と感じられたことがあったかと思います。

　被災地での復興における課題のひとつは、避難生活の長期化に伴い、懸念される心身の健康状態の悪化や、コミュニティの弱体化・被災者の孤立といわれています。

　復興庁による、平成26年度「新しい東北」先導モデル事業の、「高齢者標準による活力ある超高齢社会」「元気で健やかな子どもの成長を見守る安心な社会」分野等への取り組みとして、今回の「東北発　ほっこり食事プロジェクト」の実施により、保育士、管理栄養士等専門職種が連携することが出来ました。今後も地域が支え合いながら安心して暮らせるよう、被災地の復興へ向けて、公益社団法人日本栄養士会は、引き続き復興支援活動の拡充を目指します。

## 「食べることは、生きること」

**栄養と食を通じてふれあい、人と人とのつながりをもち、子どもと高齢者が世代を超えて交流（こうりゅう）し、うれしく、楽しく、笑顔で「ほっこり」となれるように。**

平成26年度 復興庁　「新しい東北」先導モデル事業

# 保育所を活用した生活不活発病防止給食受け取りシステムの構築
# ＜ほっこり食事プロジェクト＞

## 報告書

発　行：公益社団法人　日本栄養士会

〒105-0004　港区新橋5-13-5　新橋MCVビル6階
TEL. 03-5425-6555／FAX. 03-5425-6554
URL. http://www.dietitian.or.jp

発行日：平成27年3月31日